

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第593集

おお だいら の
大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業（大平野地区）関連遺跡発掘調査

2012

国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所
（公財）岩手県文化振興事業団

大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業(大平野地区)関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万か所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史を生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、胆沢ダム建設事業大平野地区に関連して、平成22年度に発掘調査された奥州市胆沢区大平野Ⅱ遺跡の調査成果をまとめたものです。

今回の調査により、縄文時代中期後葉の竪穴住居跡をはじめ、土坑や土器埋設遺構、焼土遺構、柱穴などの遺構が検出されました。このほか、縄文時代の早期から晩期に至る各時期の土器や石器など、多くの貴重な遺物が出土しました。今回の調査成果は、周辺地域に暮らした人々の過去の様子を明らかにする上で、貴重な資料となるものです。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、奥州市教育委員会をはじめとする関係各位に深く感謝の意を表します。

平成24年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 池田克典

例 言

- 1 本報告書は、岩手県奥州市胆沢区若柳字大平野1-1ほかに所在する大平野Ⅱ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、胆沢ダム建設事業（大平野地区）に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所との協議を経て、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡番号は「NE30-2300」、遺跡略号「ODN-10」である。
- 4 発掘調査の調査面積・期間・担当者は、次のとおりである。
調査面積：7,300㎡（トレンチによる終了分を含めると、73,000㎡）
調査期間：平成22年4月12日～9月30日
調査担当者：川又 晋・小林 弘卓
- 5 室内整理の期間と担当者は、次のとおりである。
整理期間：平成22年12月16日～平成23年3月31日
整理担当者：川又 晋・小林 弘卓
- 6 野外調査における委託業務は、次の機関に委託した。
基準点測量：株式会社南部測量設計
航空写真撮影：東邦航空株式会社
- 7 室内整理における委託業務は、次の機関に委託した。
石材鑑定：花崗岩研究会
石器実測：株式会社アルカ
- 8 本報告書の執筆は、I章を国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、Ⅱ～Ⅴ章を川又・小林が分担した。報告書の編集・校正は、川又・小林が行った。
- 9 本遺跡の調査成果は、調査概報、当センターホームページ等で概要を報告しているが、本書の内容が優先するものである。
- 10 本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

凡 例

1 略号

過年度の調査を受けて、遺構名は混同しないように101番から順に付すこととした。過年度までは、「〇号堅穴住居跡」、「〇号土坑」といった表記であったが、実測や遺物の取り上げ時等における諸般の業務を簡略化するために、アルファベットによる略号化を図った。今回の調査で使用した遺構略号は以下のとおりである。

SI：堅穴住居跡、SF：土器埋設遺構、SN：焼土遺構、SK：土坑、P：柱穴

また、図幅中で使用した遺物略号は以下のものである。

RP：土器、S：石器または自然石

整理時に過年度調査と同様の遺構名に変更することも考えられたが、今後資料として活用される際の混乱を避けるため、今回は調査時の名称のまま報告することとした。ご了承いただきたい。

なお、調査時には遺構番号を付したものの、その後の過程で遺構として認定されなかったものについても、再度その番号を付すことはせず欠番とした。欠番となった遺構名は以下のものである。

SN103、SK119・120・123・124・129

2 図版

(1) 遺構図版

遺構図版は、堅穴住居跡・土器埋設遺構・焼土遺構・土坑・柱穴の順で種類毎、番号順に掲載した。遺構図版の縮尺は以下を原則とし、各図にスケール・縮尺を付した。

堅穴住居跡の平・断面図：1/40、土器埋設遺構の平・断面図：1/20、

焼土遺構の平・断面図：1/20、土坑の平・断面図：1/40、柱穴の平面図：1/80

層序を示す数字は、基本層序にはI～Vなどのローマ数字、遺構埋土には1～5などのアラビア数字を用いた。

(2) 遺物図版

出土遺物は、縄文土器、剥片石器、礫石器がある。縄文土器は、遺構内・遺構外の各区域に分け、時期ごとに分類した上で、掲載番号を振った。石器は、種別ごとに分けたものを出土地点・層位（上→下）により並べ替え、掲載番号を振った。遺物図版は、掲載番号順に作成してある。

遺物図版の縮尺は以下を原則とし、各図にスケール・縮尺を付した。

縄文土器：1/3、石鏃：2/3、その他の剥片石器：1/2、礫石器：1/3

図版中に網かけを使用している場合は、個々に凡例を示している。

3 表

掲載遺物にはすべて観察表を付した。観察表内の()内の数値は残存値、<>内数値は推定値である。

4 写真図版

(1) 遺構写真図版

遺構写真の掲載順は、本文や図版に概ね従うようにした。写真の縮尺は不定である。

(2) 遺物写真図版

遺物写真図版は、掲載番号順に作成してある。各写真の大きさは、図版と同一縮尺になることを基本として編集した。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の環境	
1 遺跡の位置	3
2 周辺の地形	3
3 周辺の遺跡	3
III 調査・整理の方法	
1 野外調査	
(1) 調査方法	6
(2) 調査経過	7
(3) 調査区と基本層序	8
2 室内整理	9
IV 検出遺構と出土遺物	
1 検出遺構	
(1) 竪穴住居跡	13
(2) 土器埋設遺構	13
(3) 焼土遺構	14
(4) 土坑	14
(5) 柱穴	22
2 出土遺物	
(1) 縄文土器	30
(2) 石器	32
V 総括	63
報告書抄録	103

図版目次

第1図	遺跡位置図	2	第19図	縄文土器⑦	40
第2図	周辺地形と年度別本調査範囲図	5	第20図	縄文土器⑧	41
第3図	調査範囲・トレンチ位置図	10	第21図	縄文土器⑨	42
第4図	A区遺構配置図	11	第22図	縄文土器⑩	43
第5図	B・C区遺構配置図	12	第23図	縄文土器⑪	44
第6図	S I 101	23	第24図	縄文土器⑫	45
第7図	S F 101、S N 101・102・104、 S K 101・102	24	第25図	縄文土器⑬	46
第8図	S K 103~110	25	第26図	石器①	47
第9図	S K 111~118・121	26	第27図	石器②	48
第10図	S K 122・125~128・130・131	27	第28図	石器③	49
第11図	S K 132~138	28	第29図	石器④	50
第12図	A区柱穴群	29	第30図	石器⑤	51
第13図	縄文土器①	34	第31図	石器⑥	52
第14図	縄文土器②	35	第32図	石器⑦	53
第15図	縄文土器③	36	第33図	石器⑧	54
第16図	縄文土器④	37	第34図	石器⑨	55
第17図	縄文土器⑤	38	第35図	石器⑩	56
第18図	縄文土器⑥	39	第36図	石器⑪	57

表目次

第1表	A区柱穴群計測表	29	第3表	縄文土器観察表	58
第2表	出土地点別遺物重量計測表	57	第4表	石器観察表	61

写真図版目次

写真図版 1	航空写真①	67	写真図版19	土坑⑨	85
写真図版 2	航空写真②	68	写真図版20	縄文土器①	86
写真図版 3	試掘・遺構検出状況①	69	写真図版21	縄文土器②	87
写真図版 4	試掘・遺構検出状況②	70	写真図版22	縄文土器③	88
写真図版 5	A区①	71	写真図版23	縄文土器④	89
写真図版 6	A区②	72	写真図版24	縄文土器⑤	90
写真図版 7	B区①	73	写真図版25	縄文土器⑥	91
写真図版 8	B区②、C区	74	写真図版26	縄文土器⑦	92
写真図版 9	竪穴住居跡	75	写真図版27	縄文土器⑧	93
写真図版10	土器埋設遺構、焼土遺構	76	写真図版28	縄文土器⑨	94
写真図版11	土坑①	77	写真図版29	縄文土器⑩	95
写真図版12	土坑②	78	写真図版30	石器①	96
写真図版13	土坑③	79	写真図版31	石器②	97
写真図版14	土坑④	80	写真図版32	石器③	98
写真図版15	土坑⑤	81	写真図版33	石器④	99
写真図版16	土坑⑥	82	写真図版34	石器⑤	100
写真図版17	土坑⑦	83	写真図版35	石器⑥	101
写真図版18	土坑⑧	84	写真図版36	石器⑦	102

I 調査に至る経過

大平野Ⅱ遺跡は、「胆沢ダム建設事業」に伴い、その事業区域内に位置することから、発掘調査を実施することとなったものである。

胆沢ダムは、北上川右支川胆沢川に建設中の堤体高132m、堤長標高723m、総貯水容量1億4,300万㎡の中央コア型ロックフィルダムであり、その目的に洪水調節・河川環境保全等のための流水確保・かんがい用水・水道用水・水力発電を有する多目的ダムである。

胆沢ダム建設事業は、平成2年5月11日に「胆沢ダムの建設に関する基本計画」が官報告示されて建設着手し、その後平成12年6月14日に基本計画変更が官報告示され、事業費及び工期改定を行い現在に至っている（当初工期：平成11年度→変更工期：平成25年度）。

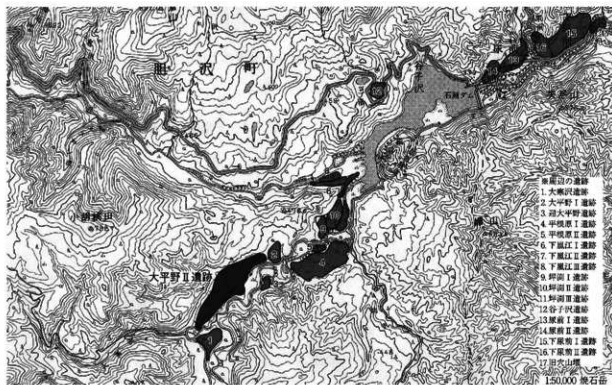
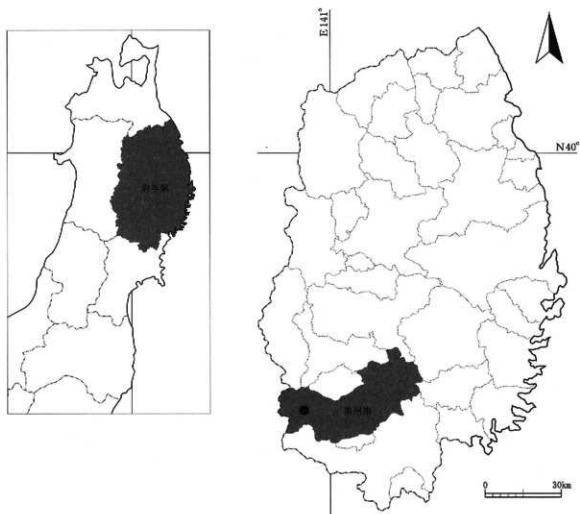
埋蔵文化財の取り扱いについては、事業に先立ち昭和58年10月に建設省（現国土交通省）新石淵ダム調査事務所（昭和63年4月に胆沢ダム工事事務所に組織改正）から、ダム事業区域内における埋蔵文化財の有無を岩手県教育委員会に照会し、周知地区864,000㎡、可能性有地区490,000㎡を確認した。その後は、水没面積4,400,000㎡を含む事業区域内における埋蔵文化財の包蔵地について、毎年度、各工事の実施に先立って岩手県教育委員会との協議を行いながら、計画的に調査を実施してきているところである。

胆沢ダム建設事業に関する大平野Ⅱ遺跡の埋蔵文化財調査は、ダム建設に伴う付替市道尿前視木平線の道路工事に必要となる盛土材の採取地や受入地などで、必要な区域（約221,000㎡）を実施することとし、平成17年3月25日付け国東整胆調設第56号により、胆沢ダム工事事務所長から岩手県教育委員会に試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会が平成17年5月30日～7月29日にかけて試掘調査を実施した結果、遺構密度は疎らではあるが、広範囲にわたって縄文時代前期と縄文時代後期の集落跡が確認されたため、当該区域について平成17年10月3日付け教生第1005号にて「発掘調査が必要」である旨、胆沢ダム工事事務所長に回答があった。

この回答に基づき岩手県教育委員会と協議し、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに委託して発掘調査を実施することになったものである。

（国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所）



第1図 遺跡位置図

Ⅱ 遺跡の環境

1 遺跡の位置

大平野Ⅱ遺跡は、奥州市胆沢区若柳字大平野に所在し、奥州市胆沢総合支所の西方約18km、石淵ダムの南西約4kmに位置する。地形図上では、国土地理院発行の1:50,000地形図「焼石岳」図幅に含まれ、北緯39度05分34秒、東経140度52分05秒にあたる。

2 周辺の地形

奥州市胆沢区の西部、秋田県境付近には奥羽山脈があり、標高1,000m級の山々が南北に連なる。ここに源を発した胆沢川が東方に流れ、広大な胆沢扇状地を形成しながら、同市水沢区にて北上川と合流する。胆沢川上流域には、胆沢川の支流である多数の小河川が山間地を縫って流れ、その中で最大の規模を持つ前川は、複数の河岸段丘を形成し、石淵ダムのダム湖西側で胆沢川と合流する。

本遺跡は、前川によって形成された河岸段丘上に立地する。前川は本遺跡の南東側に接し、北東方向へと流れている。また、本遺跡の北西側には丘陵があり、北東から南西方向に延びている。丘陵と前川に挟まれた細長い平坦地のほぼ全体が遺跡の範囲であり、その規模は、幅300m、長さ1.2km、面積およそ270,000㎡に及ぶ。遺跡内は南東向きの緩斜面で、小寒沢など複数の小河川が丘陵から前川へ向かって流れている。標高はおよそ358～375mである。遺跡の南東側には、若柳林道（市道京前槻木平線）がほぼ一直線状に延びている。

遺跡北側の山中には、かつて「仙北街道」と呼ばれる古道があり、奥羽山脈を越え秋田方面へ至る道のりとして、近世頃まで主要な役割を果たした。また、遺跡から南側へ約2km進んだ洪民沢地区には鉾山があり、中世末のキリシタン関連の文書の中にも記述されている。鉾山は数度の休坑期を挟みながらも、戦前まで採炭されていた。大正時代末にはこの地区に営林署の製材所が建設され、材木を水沢方面へ運搬する森林鉄道も敷設された。石淵ダムが完成したのは昭和28年で、その後鉄道は廃線となり、橋脚部の残骸だけが前川沿いに点々と残る。

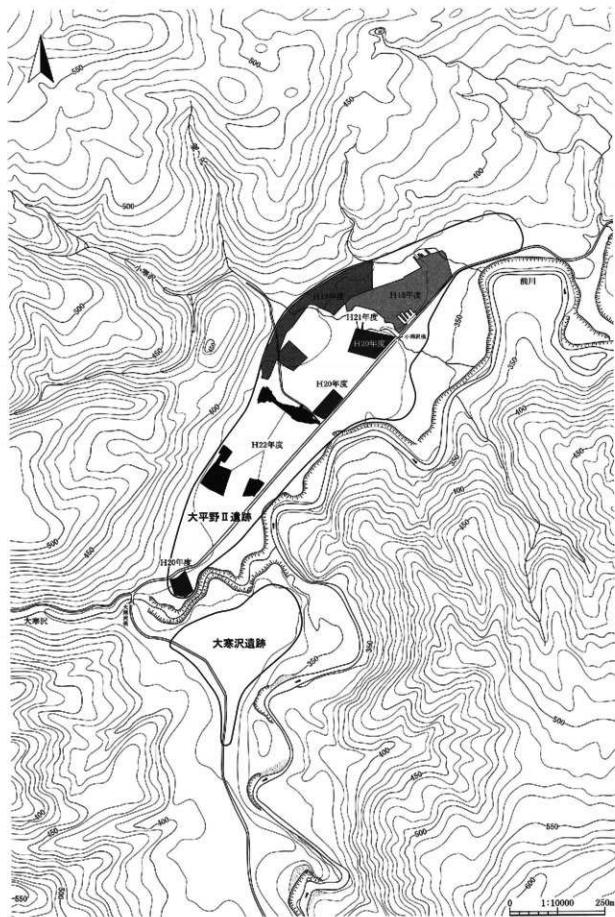
遺跡範囲内には「鹿の里」という観光施設が存在した。昭和47年にこの建設工事が行われた際、ブルドーザーによる整地作業中に縄文晩期の土器と炉跡らしき配石（石淵炉か）が確認され、胆沢町教育委員会により応急調査が実施されている。

「鹿の里」は開業後数年で閉鎖され、その後は人の手が加えられることもなく、遺跡内は広大な荒地と化した。山菜採りなどを目的として訪れる人は時折あったようだが、胆沢ダム工事開始に伴い石淵ダムゲートより西側の区域は一般者の進入が禁止となり、調査中は工事関係者以外の姿は目にする事ができなかった。

3 周辺の遺跡

本遺跡の周辺に位置し、岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡について概略を述べる。番号は、第1図に示した遺跡の番号である。ここで示したもののうち、発掘調査が行われたものはすべて胆沢ダム建設事業に伴い当里蔵文化財センターが調査したもので、報告書が刊行されている。

- 1 大寒沢遺跡 平成14年登録、詳細不明。
- 2 大平野Ⅰ遺跡 縄文土器の散布地として登録。
- 3 迎大平野遺跡 平成14年登録、詳細不明。
- 4 平根原Ⅰ遺跡 平成21年に、遺跡範囲の西端部分12,000㎡を調査した（報告書第571集）。この調査において、遺構・遺物は確認されなかった。縄文土器の散布地として登録されている。
- 5 平根原Ⅱ遺跡 縄文土器の散布地として登録。
- 6・7 下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡
胆沢川と前川の合流点付近に位置する。平成19～21年度に10,200㎡を調査した。後期旧石器時代の石器集中区をはじめ、縄文時代の竪穴住居跡や縄文土器、近世の掘立柱建物と陶磁器などを確認している。（報告書平成24年度刊行予定）
- 8 下嵐江Ⅲ遺跡 縄文土器の散布地として登録。
- 9 坪測Ⅰ遺跡 縄文土器の散布地として登録。
- 10 坪測Ⅱ遺跡 前川左岸の河岸段丘上に立地する。平成19年に5,029㎡、平成20年に2,000㎡を調査した（報告書第554集）。近・現代の墓塚が多数確認された。縄文時代の竪穴住居跡、縄文土器なども確認されている。
- 11 坪測Ⅲ遺跡 縄文土器の散布地として登録。
- 12 谷子沢遺跡 縄文土器の散布地として登録。
- 13 尿前Ⅰ遺跡 縄文土器、石器の散布地として登録。
- 14 尿前Ⅱ遺跡 平成9年にA地区8,800㎡（報告書第288集）、平成11年にB地区7,500㎡（報告書第343集）を調査した。竪穴住居跡（縄文早～前・後・晩期）、焼土遺構（縄文早～前期）、土坑（縄文後・晩期）、土器埋設遺構・集石遺構（縄文後期）、溝跡・段状遺構（近世以降）などの遺構、縄文土器（早～前・中～後・後・晩期）、円盤状土製品、石器などの遺物が確認された。
- 15 下尿前Ⅰ遺跡 平成5～7年に、18,000㎡を調査した（報告書第252集下尿前Ⅱ遺跡として報告）。竪穴住居跡（縄文時代中・後期、平安）、配石遺構（縄文後期）、土坑（縄文中・後・晩期）などの遺構、縄文土器（早・前・中・後・晩期）、弥生土器、土師器、中・近世の陶磁器、銭貨、石器などの遺物が確認された。
- 16 下尿前Ⅱ遺跡 平成8年に調査した（報告書第269集下尿前Ⅳ遺跡として報告）。調査面積は8,000㎡である。土坑（縄文・弥生）、焼土遺構（弥生）、炭窯（近・現代）などの遺構、縄文土器（早・前・中末～後初）、石器（草創期・有舌尖頭器）、弥生土器（後期）などの遺物が確認された。
- 17 旧穴山堰 近世に構築された堰である。平成10年に調査した（報告書第311集）。平堰、穴堰、余水吐、石積み、水門、水門遮水板を確認した。



第2図 周辺地形と年度別本調査範囲図

Ⅲ 調査・整理の方法

1 野外調査

平成18～21年度の調査概要

平成18～21年度まで、4か年にわたり調査が行われている。この調査成果の詳細については、報告書第576集を参照して頂きたいが、概要のみ示すと、次のようになる。

遺構は、縄文時代のものが、竪穴住居跡9棟、竪穴住居状遺構3棟、土器埋設遺構3基、土坑84基（時期不明含む）、焼土遺構21基（時期不明含む）、集石1か所で、古代～近・現代・時期不明のものが、掘立柱建物跡1棟、炉跡（カマド状遺構）17基、焼土等廃棄遺構5基、柱列6列、炭窯3基、溝5条、柱穴状土坑88個である。

遺物は、縄文土器（早・前・中・後・晩期）、土製品、石器、石製品、弥生土器、古代の土師器、中世の土師質土器などが出土している。

(1) 調査方法

概要

平成22年度の調査対象範囲は、遺跡の西側73,000㎡である。この範囲について、まずトレンチによる試掘調査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。そして、遺構・遺物の分布範囲をある程度絞り込み、その周辺部を面的に表土除去し、本調査を行うという方針である。当初の調査対象面積は7,300㎡となっているが、全面積73,000㎡の1割である7,300㎡はトレンチを開けて確認する、といった意味合いである。

試掘したのはトレンチ117か所で、8,754㎡である。このうち、拡張して表土除去を行ったのは3か所で、調査区東端（A区4,312㎡）、調査区中央山側（B区4,885㎡）、調査区中央谷側（C区1,493㎡）の計10,716㎡である。

試掘

平成16・17年には県教委生涯学習文化課による試掘調査が行われており、今回の調査における試掘にあたっては、その成果を参照した。生文課の試掘では、主に北西～南東方向にトレンチを設定しているため、今回の試掘では、基本的にこれと直交する北東～南西方向にトレンチを設定し、生文課によるトレンチと重ならないようにした。試掘作業は、バックホー（0.7㎡）で行った。トレンチの幅は、バックホーのバケット幅と同じ2mで、トレンチの方向や長さは、調査地点の地形に応じて適宜変えている。

バックホーにより掘削したトレンチは、人力でクリーニング作業を行い、遺構・遺物の有無を確認した。遺構の可能性のある黒い染みを確認した場合は、適宜、半截やサブトレンチ等を入れたりして、遺構となるかどうかの判断を行った。

表土除去・遺構検出

試掘作業が進み、ある程度遺構・遺物の分布状況が判明した所で、バックホーにより面的な表土除去を行った。表土除去を行ったのは、上述の3か所である。表土除去は、基本的にⅢ層（褐色土）上面までとしたが、Ⅱ層（暗褐色土）に遺物が含まれる地点については、Ⅱ層上面までとしている。表土除去に伴い、排土の移動が必要となるため、状況によりもう1台バックホー（0.45㎡）やキャリア

ダンプ（6 t）を使用した。

重機による表土除去後、人力で遺構検出作業を行った。

基準杭打設・グリッド設定

委託した測量業者により、実測作業の基準となる基準杭を6点打設した。調査の進捗に合わせ、2回に分けて行っている。基準杭の座標値は第4・5図に示した。

グリッドは、今年度調査区を含めた遺跡全体をカバーするよう、第X系座標に沿う形で、平成18年度調査時に設定している。大グリッドは50×50mで、グリッド原点（X = -100.600m、Y = 2,300m）から南に向かってA・B…S、東に向かってI・II…XXと区切り、AI・AII…SXXなどと表記する。これをさらに100分割する5×5mの小グリッドを、北西隅から順に01・02…100とし、大小のグリッドの組み合わせで、「AI 01」「SXX100」のように表記される。グリッドの表記については、第3～5図を参照して頂きたい。

遺構名登録・遺構精査

遺構名は、遺構種別を示す略号と、精査順を示す番号の組み合わせで表記した。用いた略号は、堅穴住居跡：SI、土器埋設遺構：SF、焼土遺構：SN、土坑：SK、柱穴：Pである。平成21年度までの調査遺構と混乱のないよう、遺構番号は101からとし、SI101～、SK101～、P101～とした。

遺構精査の方法は、土坑・柱穴など規模の小さい遺構は2分法、堅穴住居跡など規模の大きい遺構は4分法を基本とした。

写真撮影・実測・土層注記

埋土の断面を観察し、断面写真撮影・断面実測・土層注記を行った。土層注記は『新版標準土色帖』（2006年版、小山正忠・竹原秀雄著）を用い土色、締まり、粘性、混入物を記録した。土層を記録した後、完掘写真撮影・平面実測を行った。

写真撮影は、一眼レフデジタルカメラを使用した。実測作業は、断面実測では手書きによる従来通りの手法で行い、平面実測では、電子平板を使用した。

粗掘・遺構外遺物の取り上げ

検出・精査の過程で、地点によってはⅢ層中にも遺物が含まれることが判明した。そのため、遺構精査と平行して、Ⅲ層の掘り下げ作業も行うこととした。

この粗掘作業により、Ⅲ層中に含まれる遺物を回収し、掘り下げ後のⅣ層上面では、確認のため再び遺構検出を行った。

遺構外遺物の取り上げに際して、本来であれば上記で設定したグリッドを用いて出土位置を記録するべきであったが、調査対象範囲があまりにも広いことからグリッド杭の設置を省略したため、遺物の取り上げ時には、区域名と大まかな位置（A区東側、B区山側西など）と層位しか記録しておらず、出土位置の記録は大雑把なものとなっている。

（2）調査経過

【4月】12日に資材を搬入し、調査を開始した。当初の登録作業員は24名である。調査開始時、調査区内にはまだかなりの残雪（平均50cm程度）があり、そのままでは試掘も行うことができない状況であった。このため、バックホーとともに除雪作業用のブルドーザー（3 t）を搬入し、昨年度調査区や現場事務所に近い調査区東端付近から除雪作業を開始した。ある程度除雪が進んだ所で、バックホー（0.7m）による試掘調査を開始した。バックホーによる試掘を追いかける形で、作業員によりトレンチのクリーニング作業を行った。26日、1回目の基準杭打設を行う。

27日、ブルドーザーを搬出した。

- 【5月】 試掘作業は調査区の西側へ向かって徐々に進めていたが、東端周辺部のトレンチで遺構・遺物がある程度確認できたため、試掘作業を一旦中断し、東端周辺部の拡張を行い、この区域をA区とした。連休明けに雪はだいぶ少なくなったが、調査区の随所に木が植生しており、そのままでは試掘作業の妨げとなる状態であったため、除雪と同時にこのような雑物の撤去作業も行わなければならなかった。重機は、5月中旬まで2台が同時稼働し、1台(0.7m)は試掘、もう1台(0.45m)は雑物撤去や残土処理を行った。25日、バックホー0.45mを搬出した。重機は、A区の表土除去終了後、試掘を調査区中央付近まで進め、作業員により確認作業を行った。調査区北東側でしばらく遺構・遺物のない状態が続いていたが、中央付近に来て再び遺構・遺物が確認され始めた。
- 【6月】 重機は調査区中央部の拡張を行い、これをB・C区とした。7日、表土除去に伴い排土の移動が必要となったため、キャリアダンプ(6t)を搬出した。3日、実測要員補充のため作業員を1名増員した。作業員はA区の精査に着手しはじめた。
- 【7月】 B・C区の表土除去終了後、バックホーは調査区西側の試掘を進め、調査区西端まで到達し、重機による作業は13日に終了した。15日、重機を搬出した。作業員はA区の精査・粗掘を行い、7月末でA区の作業が終了した。
- 【8月】 上旬に委託者から、工事の都合上、調査区の西側部分の調査を先に終了し、引き渡しができないかとの申し出があった。西側のトレンチは重機による試掘後そのまま放置していたため、作業員による確認作業に入ることにした。重機の試掘から日数が経っていたのと猛暑の影響もあってか、トレンチの周囲や内部には雑草が予想以上に生い茂っており、確認作業に入る前に草刈り機で大掛かりな除草を行わなければならなかった。結果的に、西側付近のトレンチでは遺構・遺物は確認されず、25日に調査区西側 15,530㎡の部分終了確認を行い、引き渡しをした。30日、航空写真を撮影した。
- 【9月】 東側・西側の作業が先に終了し、残る中央B・C区の精査・粗掘を行った。28日、終了確認が行われ、30日に調査終了、資材を撤収した。当初の調査予定期間は10月末までであったが、終了が1か月早まった。

(3) 調査区と基本層序

表土除去し本調査を行った調査区は、A区、B区、C区の3か所である。

A区は、今年度調査区の北東端、HⅥ・IⅥ～IⅧ・JⅦ・JⅧグリッド付近に位置する。4,312㎡を調査した。北側は前年度調査区に隣接し、境界線上には道路がある。反対の南側には、沢が蛇行しながら流れている。沢の対岸部分は、東側の一部のみ調査している。地形は、山側から川側に向かって緩やかに下がっているようであるが、見た目には殆ど平坦である。この周辺には昭和40～50年代に「鹿の里」というレジャー施設が存在していたらしく、その一部がこのA区付近まで及んでおり、攪乱された部分が一部みられる。

B区は、調査区中央山側、KⅣ・LⅢ・LⅣ・MⅢ・MⅣ・NⅢ・NⅣグリッド付近に位置する。4,885㎡を調査した。山側と川側はそれぞれ平坦であるが、中間部に傾斜地があり、川側へ向かって下がる。

C区は、調査区中央川側、MⅤ・MⅥ・NⅤ・NⅥグリッド付近に位置する。1,493㎡を調査した。地形は、全体的に平坦である。部分的に何らかの掘削痕が認められ、昭和期における攪乱が一部に及んでいる。

調査区内の基本層序は次の通りである。大きくⅠ～Ⅴ層に分層した。

Ⅰ層：10YR3/2 黒褐色土

Ⅱ層：10YR3/3 暗褐色土

Ⅲ層：10YR4/6 褐色土

Ⅳ層：10YR5/8 黄褐色土

Ⅴ層：砂礫土

Ⅰ層は現表土であり、重機で除去した。Ⅱ層は旧表土で、基本的には重機で除去したが、遺物を含む場合もあり、そのような場所は人力で掘り下げた。

遺構検出はⅢ層上面で行った。A区の北側から中央、B区の山側の一部ではⅢ・Ⅳ層が存在せず、Ⅰ層直下のⅤ層上面で遺構検出している。また、当初はⅢ層上面を遺構最終検出面と捉えていたが、後にⅢ層中にも遺物が含まれることが判明したため、遺構精査と並行してⅢ層の掘り下げ作業を行い、遺物を回収した。掘り下げ後、Ⅳ層上面で再び遺構検出を行った。

遺構外の出土遺物はⅡ層出土とⅢ層出土に分けて取り上げているが、Ⅱ・Ⅲ層の境界は不明瞭であり、正確に分層できたとは言い難い。

A～C区以外では、遺構・遺物がほとんど確認されなかったため、試掘のみで調査終了としている。調査区西端付近は、厚い盛土が確認され、その直下がⅤ層であった。

2 室内整理

(1) 遺 構

手書きの遺構断面図は、スキャンし、デジタルトレースした。それを平面図と合成し、第2原図を作成した後、デジタルデータとして遺構図版を作成した。

遺構写真は、デジタルデータを整理し、遺構写真図版を作成した。

(2) 遺 物

今回の出土遺物は、縄文土器と石器がある。水洗処理は、ほとんど現場で行った。

縄文土器は、出土地点ごとに重量を計測し、接合作業を行った。残存状況の良いものや特徴的な文様を持つものを選別し、登録・石膏入れを行った。登録したものはすべて実測・拓本作成を行った。

石器も同様に選別した後、登録をした。剥片石器の実測は、株式会社アルカに委託した。礫石器の実測は当センターの職員が行った。

遺物実測図は、手書きのものはスキャンし、デジタルトレースをした。拓本もスキャンしてデジタルデータ化し、遺物図版を作成した。

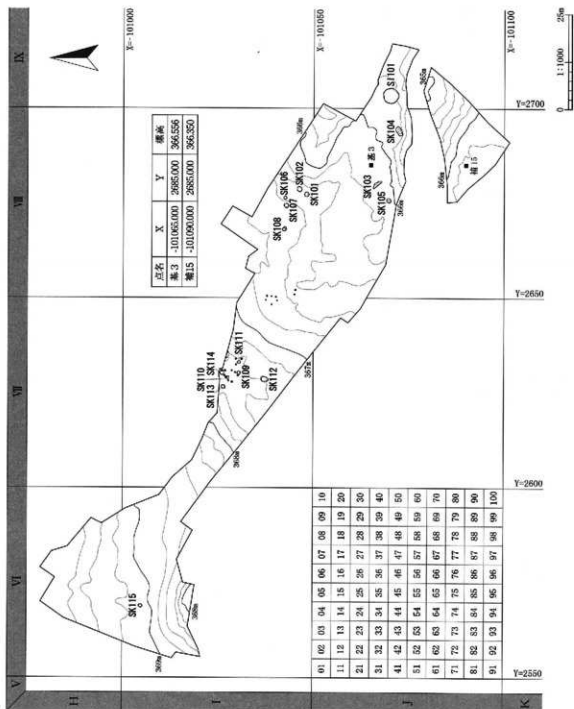
遺物写真撮影は、一部を外部委託し、残りは当センターの写真撮影技師が撮影した。撮影には一眼レフデジタルカメラを用いた。撮影したデータを用いて、遺物写真図版を作成した。

(3) 保 管

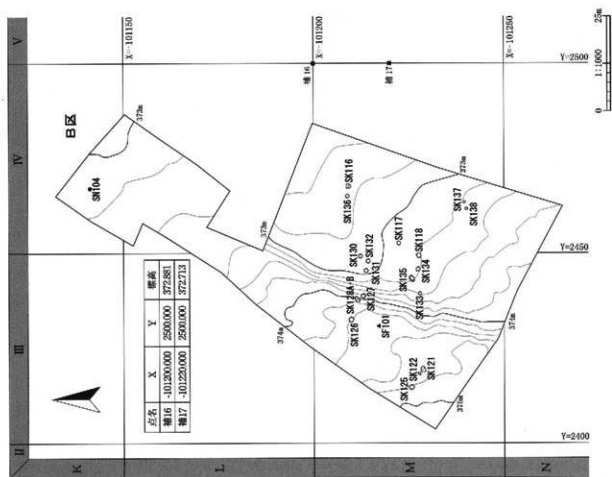
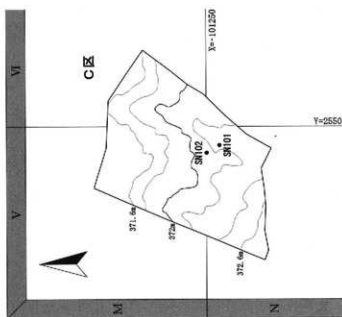
出土遺物、遺物実測図・拓本、遺構実測図、遺物写真、遺構写真などの調査資料は、収納台帳を作成し、当埋蔵文化財センターの所定の場所に保管してある。また、上記の実測図・写真等は当センターの規定に従い、すべてデジタルデータ化を行った。



第3図 調査範囲・トレンチ位置図



第4図 A区遺構配置図



第5図 B・C区連携配置図

IV 検出遺構と出土遺物

1 検出遺構

検出した遺構は、竪穴住居跡1棟、土器埋設遺構1基、焼土遺構3基、土坑34基、柱穴22個である。調査区域別にすると、A区では竪穴住居跡1棟・土坑15基・柱穴22個、B区では土器埋設遺構1基・焼土遺構1基・土坑19基、C区では焼土遺構2基を確認した。時代的には、縄文時代のものと同属時期不明のものに大別される。記載にあたっては、上記の遺構の種類ごととした。

(1) 竪穴住居跡

S I 101竪穴住居跡 (第6図、写真図版9)

〔位置・検出状況〕A区、J IX31・41グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。検出した当初は、プランが不明瞭で、竪穴住居跡であるとの認識ができなかった。トレンチを入れてを掘削したところ、偶然、石囲炉の一部が確認できたため、竪穴住居跡であると認識した。

〔形状・規模〕平面形は円形である。西側の一部は、試掘調査のトレンチにより破壊してしまった。また、南側の一部は木根により攪乱されている。主軸方向は、N-10°-Eである。開口部径417×403cm、底部径392×371cmで、検出面から床面までの深さは30cmである。

〔壁・床面〕壁はやや外傾する。床面はほぼ平坦であるが、中央からやや北東寄りに、周辺部よりも一段高い部分がある。

〔埋土〕4層に分層した。暗褐色土を主体とする。炭化物粒を微量～少量含む。壁際の埋土は地山に類似し、壁と地山の境界は判別し難い。

〔炉〕中央からやや南寄りに設置された石囲炉である。仕切りの際により2室に分かれる複式炉である。南端においては、埋め込まれていた礫が抜き取られたとみられ、設置痕と思われる小穴が2個確認された。したがって、全体としては8の字状に礫が配置されていたものと思われるが、南端は開口していた可能性もある。規模は全体では110×70cm、北側では50×45cm、南側では75×70cm、長軸方向はN-10°-Eである。床面から炉底面までの深さは北側で17cm、南側で23cmである。埋土は5層に分層した。1・3層は炭化物を含み、炉底面付近では焼土ブロックも少量確認したが、炉底面に明確な焼成範囲は確認できなかった。構築礫の一部は被熱していた。4・5層は、炉石設置のための埋め戻し土である。

〔遺物〕(第13・26図、写真図版20・30)

〔縄文土器〕339.1g出土し、2点(1・2)を掲載した。

〔石器〕石錐1点(1)、削搔器類1点(2)、台石2点(3・4)、石皿1点(5)を掲載、ほか剥片石器41.1gが出土した。1・2は埋土、3は床面で出土した。4・5は、炉石として転用されていたもので、5は被熱している。

〔時期〕出土遺物や炉の形態から、縄文時代中期後葉と判断される。

(2) 土器埋設遺構

S F 101土器埋設遺構 (第7図、写真図版10)

〔位置・検出状況〕B区、M III37グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【形状・規模】掘り方部分は、開口部径41×31cm、深さ8cmのいびつな形状を呈する。この北西側に、正位の状態では土器が埋設されている。検出時には既に口縁部付近は失われていた。

【埋土】2層に細分した。1層は土器内部の埋土、2層は土器埋設のための埋め戻し土である。

【遺物】(第13図、写真図版20)

【縄文土器】重量328.1g、埋設されていた1点(3)を掲載した。

【時期】縄文時代と判断される。

(3) 焼土遺構

B区北東端で1基(SN104)、C区中央部で2基(SN101・102)を確認した。焼成範囲が不整に広がるもので、時期や用途も不明である。

SN101焼土遺構(第7図、写真図版10)

【位置・検出状況】C区、NV10グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】焼成範囲は64×53cmの不整形で、焼成深度は5cmである。

【遺物】なし。

SN102焼土遺構(第7図、写真図版10)

【位置・検出状況】C区、NV09グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】焼成範囲は3か所あり、①28×18cm、②14×9cm、③12×8cmである。焼成深度は6cmである。

【遺物】なし。

SN104焼土遺構(第7図、写真図版10)

【位置・検出状況】B区、KIV84グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】焼成範囲は57×35cmの楕円状に広がり、焼成深度は7cmである。

【遺物】なし。

(4) 土坑

調査区全体で34基を確認した。区域別では、A区15基、B区19基である。形状・規模については様々で、性格・用途的にも明確に断定できるものは少ないが、人為的に大礫が混入したり、遺物の出土が著しかったりと、墓塚と思われるものが一部で見られた。

SK101土坑(第7図、写真図版11)

【位置・検出状況】A区、IⅧ96グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は円形で、開口部径148×136cm、底部径108cm、深さ100cmである。

【壁・底面】壁は直立する。底面は平坦である。

【埋土】6層に分層した。黄褐色土ブロックを含む黒褐色土が主体である。人為堆積と思われる。

【遺物】(第13図、写真図版20)

【縄文土器】3,038.9g出土し、9点(4～12)を掲載した。4は底面出土である。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代後期と判断される。貯蔵穴か。

SK102土坑（第7図、写真図版11）

〔位置・検出状況〕A区、IⅦ96グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は楕円形で、開口部径154×124cm、底部径115×114cm、深さ90cmである。

〔壁・底面〕壁はやや外傾する。底面は平坦である。

〔埋土〕7層に分層した。黒褐色土が主体で、全体的に炭化物や黄褐色土を混入する。人為堆積か。

〔遺物〕（第14・26図、写真図版21・30）

〔縄文土器〕1,472.7g出土し、このうち4点(13~16)を掲載した。

〔石器〕石鏃1点(6)が底面から出土した。他に剥片36.9gが出土している。

〔時期・性格〕出土遺物から、縄文時代後期と推定される。貯蔵穴か。

SK103土坑（第8図、写真図版11）

〔位置・検出状況〕A区、JⅦ36・37グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は楕円形である。開口部径285×102cm、底部径208×50cm、深さ48cmである。

〔壁・底面〕壁は外傾する。底面は平坦である。

〔埋土〕5層に細分した。暗褐色土が主体である。

〔遺物〕（第14図、写真図版21）

〔縄文土器〕327.0g出土し、1点(17)を掲載した。

〔石器〕剥片2.3gが出土した。

〔時期・性格〕出土遺物から、縄文時代前期と推定される。性格は不明。

SK104土坑（第8図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕A区、JⅦ49グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は楕円形で、開口部径258×138cm、底部径137×73cm、深さ48cmである。

〔壁・底面〕壁は外傾する。底面は平坦である。

〔埋土〕4層に細分した。暗褐色土が主体である。

〔遺物〕（第14図、写真図版21）

〔縄文土器〕165.9g出土し、1点(18)を掲載した。

〔石器〕剥片11.1gが出土した。

〔時期・性格〕出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

SK105土坑（第8図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕A区、JⅦ36・46グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は楕円形で、開口部径117×105cm、底部径68×55cm、深さ32cmである。

〔壁・底面〕壁は外傾する。底面は平坦である。

〔埋土〕2層に細分した。暗褐色土主体である。

〔遺物〕

〔縄文土器〕43.8g出土した。

〔石器〕剥片8.9gが出土した。

〔時期・性格〕出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

SK106土坑（第8図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕A区、IⅧ86グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は円形で、開口部径82×78cm、底部径75×73cm、深さ28cmである。

〔壁・底面〕壁は直立する。底面は平坦である。

〔埋土〕暗褐色土の単層である。礫を多く含む。人為堆積か。

〔遺物〕（第26図、写真図版30）

〔縄文土器〕41.9g出土した。

〔石器〕敲磨器類1点(7)、石皿1点(8)、台石1点(9)、剥片34gが出土している。

〔時期・性格〕出土遺物から、縄文時代と推定される。墓塚の可能性が高い。

SK107土坑（第8図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕A区、IⅧ85グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は円形で、開口部径128×111cm、底部径97×86cm、深さ47cmである。

〔壁・底面〕壁はやや外傾する。底面は平坦である。

〔埋土〕7層に細分した。黒褐色土が主体である。全体的に炭化物を含む。壁際では黄褐色土ブロックを多く含む。人為堆積と思われる。

〔遺物〕（第14・26図、写真図版21・30）

〔縄文土器〕519.5g出土し、2点(19・20)を掲載した。

〔石器〕石錐1点(10)、削搔器類1点(11)が出土した。他に、石核1点、剥片19.2gが出土している。

〔時期・性格〕出土遺物から、縄文時代と推定される。墓塚の可能性が高い。

SK108土坑（第8図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕A区、IⅧ84グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は円形で、開口部径122×98cm、底部径66×82cm、深さ30cmである。

〔壁・底面〕壁は直立する。底面は平坦である。

〔埋土〕2層に細分した。黒褐色土が主体である。礫を多く含む。人為堆積と思われる。

〔遺物〕（第14図、写真図版21）

〔縄文土器〕352.2g出土し、1点(21)を掲載した。

〔石器〕剥片1.6gが出土した。

〔時期・性格〕出土遺物から、縄文時代後期と推定される。墓塚の可能性が高い。

SK109土坑（第8図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕A区、IⅧ56～67グリッドに位置する。V層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は円形で、開口部径100×88cm、底部径80×78cm、深さ54cmである。

〔壁・底面〕壁は直立する。底面は平坦である。

〔埋土〕2層に細分した。黒褐色土が主体である。

〔遺物〕

〔縄文土器〕283.0g出土した。

〔石器〕剥片13.3gが出土した。

〔時期・性格〕出土遺物から縄文時代と推定される。性格は不明。

SK110土坑（第8図、写真図版13）

【位置・検出状況】A区、I VI56グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【重複関係】P119と重複する。新旧関係は不明。

【形状・規模】重複により北側の一部は不明であるが、平面形は円形と推定される。開口部径(78)×77cm、底部径(46)×52cm、深さ34cmである。

【壁・底面】壁は外傾する。底面は平坦である。

【埋土】2層に細分した。黒褐色土が主体である。全体的に炭化物を少量含む。

【遺物】(第14図、写真図版21)

【縄文土器】153.7g出土し、1点(22)を掲載した。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

SK111土坑（第9図、写真図版13）

【位置・検出状況】A区、I VI57・67グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は円形で、開口部径84×76cm、底部径76×62cm、深さ31cmである。

【壁・底面】壁は直立する。底面は平坦である。

【埋土】3層に細分した。黒褐色土が主体である。礫を多量含む。人為堆積と思われる。

【遺物】(第14・15図、写真図版22)

【縄文土器】587.6g出土し、2点(23・24)を掲載した。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代と推定される。墓塚の可能性が高い。

SK112土坑（第9図、写真図版14）

【位置・検出状況】A区、I VII76グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は楕円形で、開口部径193×134cm、底部径152×102cm、深さ42cmである。

【壁・底面】壁は外傾する。底面は平坦である。

【埋土】2層に細分した。黒褐色土が主体である。礫を多く含む。

【遺物】なし。

【時期・性格】いずれも不明。

SK113土坑（第9図、写真図版14）

【位置・検出状況】A区、I VI56グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は円形で、開口部径114×86cm、底部径84×79cm、深さ36cmである。

【壁・底面】壁はやや外傾する。底面は平坦である。

【埋土】褐色砂礫質土の単層である。調査員の hands により、断面写真を撮影していない。

【遺物】なし。

【時期・性格】いずれも不明。

SK114土坑（第9図、写真図版14）

【位置・検出状況】A区、I VI56・57グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【重複関係】東側がP122と重複する。新旧関係は不明。

【形状・規模】平面形は円形である。開口部径114×114cm、底部径94×85cm、深さ72cmである。

【壁・底面】壁は直立する。底面は平坦である。

【埋土】暗褐色土の単層である。礫を多く含む。人為堆積か。

【遺物】

【縄文土器】78.5g 出土した。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代と推定される。墓塚の可能性がある。

SK115土坑（第9図、写真図版14）

【位置・検出状況】A区、I VI 4・14グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は楕円形で、開口部径104×85cm、底部径78×70cm、深さ21cmである。

【壁・底面】壁は外傾する。底面は平坦である。

【埋土】黒褐色土の単層である。

【遺物】（第27図、写真図版30）

【石器】削搔器類1点(12)が出土した。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

SK116土坑（第9図、写真図版15）

【位置・検出状況】B区、MIV14グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は円形で、開口部径133×118cm、底部径60×57cm、深さ50cmである。

【壁・底面】壁は外傾する。底面は平坦である。

【埋土】3層に細分した。黒褐色土が主体である。

【遺物】

【縄文土器】50.4g 出土した。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

SK117土坑（第9図、写真図版15）

【位置・検出状況】B区、MIV41グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は円形である。開口部径106×97cm、底部径88×76cm、深さ50cmである。

【壁・底面】壁は直立する。底面は平坦である。

【埋土】3層に細分した。暗褐色土が主体である。

【遺物】（第15図、写真図版22）

【縄文土器】35.1g 出土し、1点(25)を掲載した。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

SK118土坑（第9図、写真図版15）

【位置・検出状況】B区、MⅢ60グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は楕円形である。開口部の南側を一部掘り過ぎてしまった。開口部径141×(103)cm、底部径103×92cm、深さ58cmである。

【壁・底面】壁は直立する。底面は平坦である。

【埋土】3層に細分した。1・3層は黄褐色土を多く含み、埋め戻されたと考えられる。

【遺物】

【縄文土器】7.1g出土した。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

SK121土坑（第9図、写真図版15）

【位置・検出状況】B区、MⅢ54グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は楕円形である。開口部径163×124cm、底部径73×64cm、深さ46cmである。

【壁・底面】東側は直立し、西側は外傾する。

【埋土】2層に細分した。暗褐色土が主体である。

【遺物】なし。

【時期・性格】いずれも不明。

SK122土坑（第10図、写真図版16）

【位置・検出状況】B区、MⅢ54グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は楕円形で、開口部径86×70cm、底部径52×42cm、深さ26cmである。

【壁・底面】壁は外傾する。底面は平坦である。

【埋土】暗褐色土の単層である。

【遺物】（第27図、写真図版30）

【石器】石筈1点(13)が出土した。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

SK125土坑（第10図、写真図版16）

【位置・検出状況】B区、MⅢ43・53グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は円形である。開口部径136×112cm、底部径98×90cm、深さ56cmである。

【壁・底面】壁はやや外傾する。底面は平坦である。

【埋土】5層に細分した。暗褐色土主体である。礫を多く含む。

【遺物】なし。

【時期・性格】いずれも不明。

SK126土坑（第10図、写真図版16）

【位置・検出状況】B区、MⅢ17グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は円形で、開口部径137×127cm、底部径103×102cm、深さ47cmである。

【壁・底面】壁はやや外傾する。底面は平坦である。

【埋土】4層に細分した。暗褐色土が主体である。礫を多く含む。

【遺物】（第15図、写真図版22）

【縄文土器】122.6g出土し、2点(26・27)を掲載した。

【石器】剥片3.1gが出土した。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

SK127土坑（第10図、写真図版16）

【位置・検出状況】B区、MⅢ28グリッドに位置する。V層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は円形である。開口部径134×115cm、底部径93×84cm、深さ66cmである。

〔壁・底面〕壁はやや外傾する。底面は平坦である。底面中央に副穴1個がある。規模は、開口部31×28cm、深さ9cmである。

〔埋土〕4層に細分した。黒褐色土が主体である。礫を多く含む。人為堆積か。

〔遺物〕(第15・27図、写真図版22・30・31)

〔縄文土器〕1,283.6g出土し、3点(28~30)を掲載した。

〔石器〕敵盾器類3点(14~16)が出土した。

〔時期・性格〕出土遺物から、縄文時代と推定される。墓塚の可能性はある。

SK128A・B土坑(第10図、写真図版17)

〔位置・検出状況〕B区、MⅢ28グリッドに位置する。V層上面で検出した。

〔重複関係〕2基の土坑が重複していると考えられ、北側をSK128A、南側をSK128Bとした。検出時に重複を認識できず、同時に掘り上げた。

〔形状・規模〕SK128Aは、平面形が円形で、開口部径87×(84)cm、底部径51×54cm、深さ52cmである。SK128Bは、平面形が円形で、開口部径111×(95)cm、底部径88×(80)cm、深さ37cmである。

〔壁・底面〕A・Bとも壁はやや外傾し、底面は平坦である。

〔埋土〕黒褐色土の単層で、礫を多く含む。人為堆積か。

〔遺物〕(第15・27図、写真図版22・31)

〔縄文土器〕1,399.6g出土し、7点(31~37)を掲載した。

〔石器〕敵盾器類2点(17・18)、石皿1点(19)が出土した。他に、剥片125.0gが出土している。

〔時期・性格〕上述のとおり同時に掘り下げたため、遺物の明確な出土位置は不明だが、大半がSK128Aに帰属するものと思われる。したがって出土遺物から、SK128Aは縄文時代晩期中葉と推定される。SK128Aについては墓塚の可能性はある。SK128Bについては、縄文時代のものと思われるが、性格は不明。

SK130土坑(第10図、写真図版17)

〔位置・検出状況〕B区、MⅢ30グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は円形で、開口部径114×107cm、底部径84×78cm、深さ36cmである。

〔壁・底面〕壁はやや外傾する。底面は平坦である。

〔埋土〕2層に細分した。黒褐色土が主体である。

〔遺物〕

〔縄文土器〕145.7g出土した。

〔時期・性格〕出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

SK131土坑(第10図、写真図版17)

〔位置・検出状況〕B区、MⅢ29グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は円形で、開口部径115×104cm、底部径92×80cm、深さ29cmである。

〔壁・底面〕壁はやや外傾する。底面は平坦である。

〔埋土〕2層に細分した。暗褐色土が主体である。

〔遺物〕なし。

【時期・性格】 いずれも不明。

S K132土坑 (第11図、写真図版17)

【位置・検出状況】 B区、MⅢ30グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】 平面形は円形で、開口部径107×102cm、底部径90×89cm、深さ47cmである。

【壁・底面】 壁はやや外傾する。底面は平坦である。

【埋土】 2層に細分した。黒褐色土が主体である。

【遺物】 (第16・28図、写真図版22・31)

【縄文土器】底面で55.4g出土し、1点(38)を掲載した。

【石器】凹石1点(20)が出土した。他に、剥片50.8gが出土している。

【時期・性格】 出土遺物から、縄文時代晩期中葉と推定される。性格は不明。

S K133土坑 (第11図、写真図版18)

【位置・検出状況】 B区、MⅢ58グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】 平面形は円形で、開口部径89×81cm、底部径82×75cm、深さ40cmである。

【壁・底面】 壁は直立する。底面は平坦である。

【埋土】 3層に細分した。暗褐色土が主体である。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 いずれも不明。

S K134土坑 (第11図、写真図版18)

【位置・検出状況】 B区、MⅢ59・60グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】 平面形は円形で、開口部径121×103cm、底部径58×56cm、深さ66cmである。

【壁・底面】 壁はやや外傾する。底面は平坦である。

【埋土】 4層に細分した。黒色土が主体で、1層は礫を多く含み、2～4層は黄褐色土を多く含む。

【遺物】

【縄文土器】87.4g出土した。

【時期・性格】 出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

S K135土坑 (第11図、写真図版18)

【位置・検出状況】 B区、MⅢ59グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【重複関係】 北西側を風倒木痕に切られる。

【形状・規模】 平面形は楕円形で、開口部径173×103cm、底部径87×82cm、深さ52cmである。

【壁・底面】 壁は、北西側が外傾し、南東側が直立する。底面は平坦である。

【埋土】 におい黄褐色土の単層である。

【遺物】

【縄文土器】53.5g出土した。

【時期・性格】 出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

S K136土坑 (第11図、写真図版18)

【位置・検出状況】B区、MIV13・14グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は円形で、開口部径105×94cm、底部径82×78cm、深さ40cmである。

【壁・底面】壁はやや外傾する。底面は平坦である。

【埋土】4層に細分した。黒褐色土が主体である。

【遺物】なし

【時期・性格】いずれも不明。

S K137土坑（第11図、写真図版19）

【位置・検出状況】B区、MIV73グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は円形で、開口部径71×63cm、底部径37×35cm、深さ42cmである。

【壁・底面】壁はやや外傾する。底面は平坦である。

【埋土】2層に細分した。黒褐色土を主体とする。

【遺物】なし。

【時期・性格】いずれも不明。

S K138土坑（第11図、写真図版19）

【位置・検出状況】B区、MIV73グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

【形状・規模】平面形は円形で、開口部径79×69cm、底部径33×33cm、深さ47cmである。

【壁・底面】壁はやや外傾する。底面は平坦である。

【埋土】2層に細分した。黒褐色土が主体である。

【遺物】

【縄文土器】34.4g出土した。

【時期・性格】出土遺物から、縄文時代と推定される。性格は不明。

（5）柱 穴

A区柱穴群（第12図、写真図版6）

【位置・検出状況】A区で22個を確認した。南側と北側で大きく2か所のまとまりに分かれ、南側はP101～108、北側はP109～122が属する。

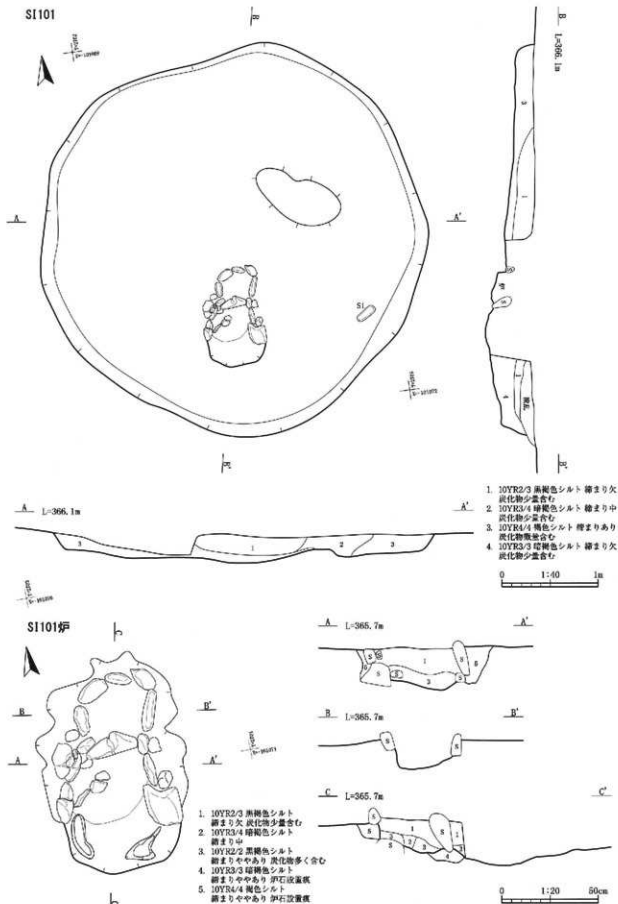
【重複関係】P119がS K110と、P122がS K114と重複する。新旧関係はいずれも不明である。

【形状・規模】平面形はいずれも円形を基調としている。個々の規模の詳細は第1表に記した。

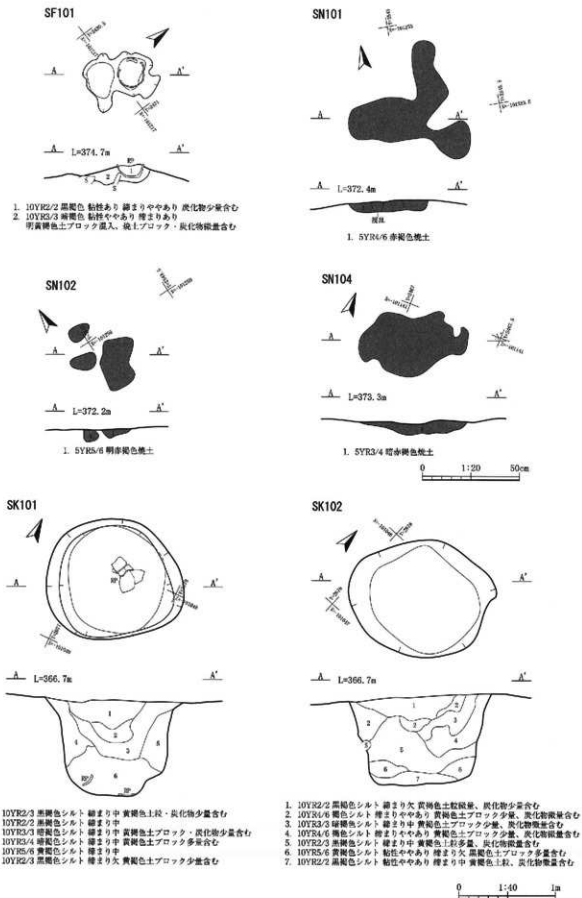
【埋土】いずれも黒褐色～暗褐色土が主体である。柱痕跡が残るものは確認されなかった。

【遺物】なし。

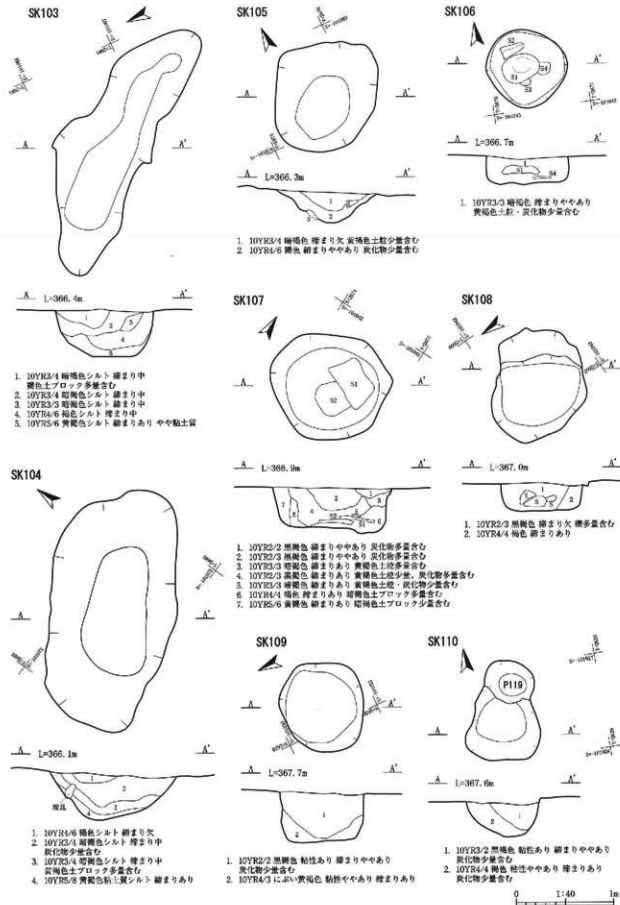
【時期・性格】掘立柱建物や堅穴住居の柱穴である可能性を想定したが、配列に規則性を見出すことはできなかった。時期は不明である。



1 検出遺構



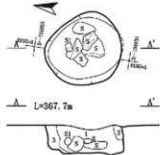
第7図 SF101、SN101・102・104、SK101・102



第8図 SK103~110

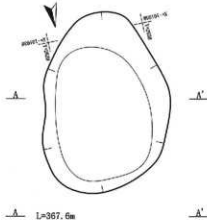
1 検出遺構

SK111



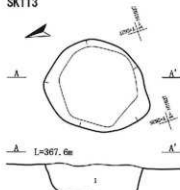
- L=367.7m
1. 10YR2/3 黒褐色 粘性あり 締まり欠 炭化物少量含む
 2. 10YR5/4 暗褐色 粘性あり 締まり極めてあり
 3. 10YR4/4 褐色 粘性あり 締まりあり 炭化物少量含む

SK112



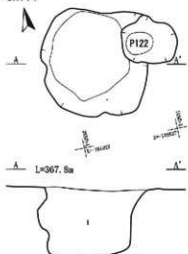
- L=367.6m

SK113



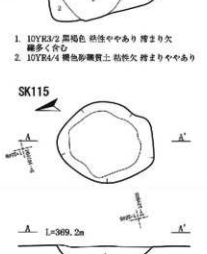
- L=367.6m
1. 10YR4/4 褐色 粘性弱質土 粘性欠 締まりあり

SK114



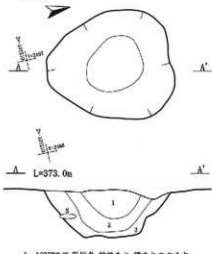
- L=367.8m
1. 10YR3/3 暗褐色 粘性ややあり 締まりあり 褐色土との混土、塵多く含む、炭化物少量含む

SK115



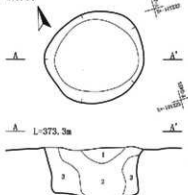
- L=369.2m
1. 10YR2/2 黒褐色 粘性あり 締まりややあり

SK116



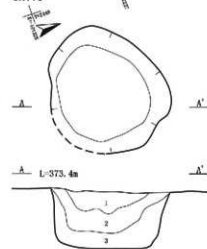
- L=373.0m
1. 10YR2/2 黒褐色 粘性あり 締まりややあり
 2. 10YR3/2 暗褐色 粘性あり 締まりややあり
 3. 10YR4/3 濃い黄褐色 粘性ややあり 締まりややあり 黄褐色土ブロック少量含む

SK117



- L=373.3m
1. 10YR2/2 黒褐色 粘性あり 締まりややあり
 2. 10YR3/3 暗褐色 粘性あり 締まりややあり 濃い黄褐色土ブロック少量含む
 3. 10YR4/4 褐色 粘性あり 締まりややあり

SK118

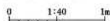


- L=373.4m
1. 10YR5/8 黄褐色 粘性あり 締まりあり 黒褐色土との混土
 2. 10YR3/2 暗褐色 粘性あり 締まりあり 黄褐色土粒を少量含む
 3. 10YR3/3 暗褐色 粘性あり 締まりあり 上位に黄褐色土ブロック含む

SK121

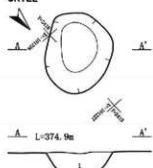


- L=374.9m
1. 10YR3/3 暗褐色 粘性欠 締まりややあり
 2. 10YR4/6 褐色 粘質土 粘性欠 締まり欠



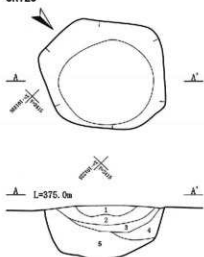
第9図 SK111~118-121

SK122



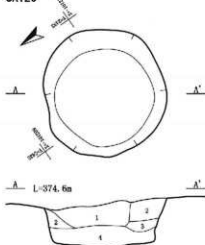
1. 10YR3/3 暗褐色 粘性土 締まり欠

SK125



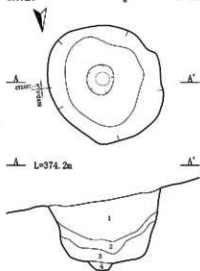
1. 10YR2/1 黒色 粘性あり 締まり欠
2. 10YR2/3 黒褐色 粘性ややあり 締まりあり
3. 10YR4/4 褐色の硬質土 粘性ややあり
4. 10YR3/3 暗褐色 粘性ややあり 締まりあり
5. 10YR3/4 暗褐色 粘性ややあり 締まりややあり

SK126



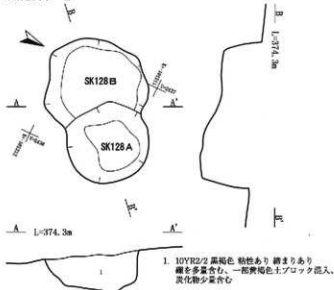
1. 10YR2/2 黒褐色 粘性ややあり 締まりややあり
2. 10YR3/3 暗褐色 粘性土 締まりややあり
3. 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性土 締まりややあり
4. 10YR3/4 暗褐色 粘性ややあり 締まりややあり

SK127



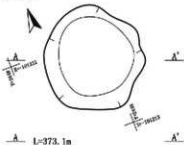
1. 10YR2/2 黒褐色 粘性あり 締まりややあり 炭化物少量含む
2. 10YR2/1 黒色 粘性あり 締まりややあり 炭化物多量含む
3. 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性ややあり 締まり欠
4. 10YR3/2 黒褐色 粘性ややあり 締まりややあり 面穴痕土

SK128 A・B



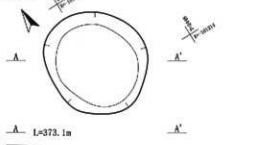
1. 10YR2/2 黒褐色 粘性あり 締まりあり 炭を多量含む、一部黄褐色土ブロック混入、炭化物少量含む

SK130



1. 10YR2/2 黒褐色 粘性あり 締まりややあり 炭化物少量含む
2. 10YR3/3 暗褐色 粘性あり 締まり欠 黄褐色土ブロック少量含む

SK131

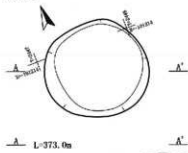


1. 10YR3/3 暗褐色 粘性ややあり 締まりあり
2. 10YR4/4 褐色 粘性ややあり 締まりあり 下に黄褐色土ブロック混入

0 1:40 1m

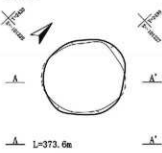
第10図 SK122・125~128・130・131

SK132



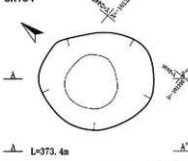
1. 10YR3/2 黒褐色 粘性あり 締まりあり
 2. 10YR4/4 褐色 粘性あり 締まりあり
- 下に黄褐色土ブロック混入

SK133



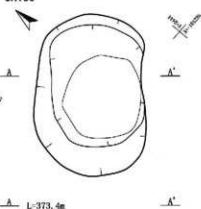
1. 10YR3/4 暗褐色 粘性あり 締まりあり
2. 10YR2/3 黒褐色 粘性あり 締まりあり
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性あり 締まりあり

SK134



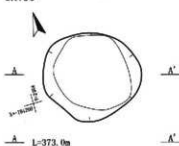
1. 10YR2/1 黒色 粘性あり 締まりややあり
にぶい黄褐色土ブロック少量含む
2. 10YR2/3 黒褐色 粘性あり 締まりややあり
黄褐色土混入
3. 10YR4/4 褐色 粘性あり 締まりあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性あり 締まりややあり
暗褐色土との混入

SK135



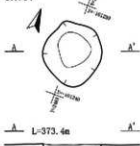
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性あり 締まり欠
炭化物少量含む

SK136



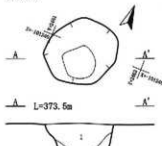
1. 10YR2/3 黒褐色 粘性ややあり 締まりあり 小礫含む
2. 10YR3/3 暗褐色 粘性ややあり 締まりややあり
3. 10YR4/4 褐色 粘性ややあり 締まりややあり 暗褐色土含む
4. 10YR2/3 黒褐色 粘性ややあり 締まりあり

SK137



1. 10YR2/3 黒褐色 粘性あり 締まりややあり
炭化物少量含む
2. 10YR4/4 褐色 粘性あり 締まり欠

SK138

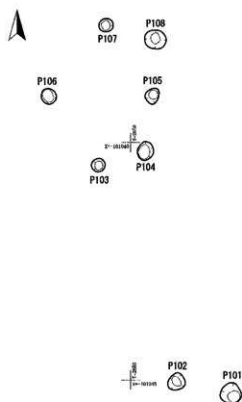


1. 10YR2/3 黒褐色 粘性あり 締まり欠
炭化物少量含む
2. 10YR3/3 暗褐色 粘性あり 締まりややあり
黄褐色土ブロック少量含む

0 1:40 1m

第11図 SK132~138

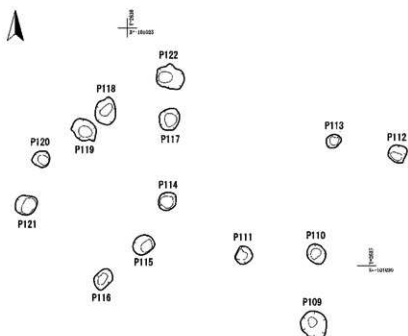
A区柱穴群（南側）



第1表 A区柱穴群計測表

柱穴名	開口部径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	備考
P101	45 × 44	38	366.08	
P102	38 × 34	40	366.11	
P103	29 × 28	25	366.39	
P104	40 × 34	50	366.17	
P105	34 × 28	46	366.23	
P106	33 × 30	38	366.25	
P107	30 × 28	33	366.40	
P108	45 × 42	50	366.23	
P109	61 × 55	54	366.91	
P110	45 × 38	56	366.90	
P111	38 × 34	50	367.00	
P112	41 × 38	31	367.11	
P113	33 × 28	23	367.21	
P114	42 × 36	57	366.96	
P115	46 × 39	54	367.01	
P116	47 × 35	50	366.97	
P117	50 × 43	45	367.04	
P118	58 × 43	58	366.98	
P119	58 × 44	58	366.98	SK110と重複→新旧関係不明
P120	38 × 34	49	366.93	
P121	48 × 43	49	367.03	
P122	58 × 43	64	366.99	SK114と重複→新旧関係不明

A区柱穴群（北側）



第12図 A区柱穴群

2 出土遺物

(1) 縄文土器 (第13～25図、写真図版20～29)

今回の調査で出土した土器の総量は 64,187.9g である。遺構内で出土したものは、このうちの 11,006.7g (17.1%) である。調査区別では、A区が 35,789.9g (55.7%)、B区が 26,032.1g (40.6%)、C区が 1,205.3g (1.9%) で、この区域以外のトレンチ出土や表採分などが 1,160.6g (1.8%) である。

掲載した縄文土器は 199点で、総重量は 19,295.1g (30.1%) である。出土地点により遺構内と遺構外各区域(A区・B区・C区)に分け、遺構内出土分は遺構別、遺構外出土分は時期別に縄文早期・前期・中期・後期・晩期・時期不明の6つに分類している。特徴的な文様等が確認できないものはすべて時期不明としており、口縁部・体部・底部など残存部位別に分けて掲載した。

接合作業で器形が復元できた土器は全体的に少ない。早期は種類が少ないものの、一個体分がまともに出土したものもあり、器形がある程度復元できた。前・中期では種類が増えるものの、器形が分かるものは少なく、大半が破片資料である。後・晩期は遺構内からも出土し、復元できたものも若干ある。早期はA～C区、前・中・後期はA・B区で出土し、晩期はB区でのみ出土している。

① 早期

[A区] 39は細い沈線による小さな格子目状の文様があり、貝殻腹縁による圧痕と条痕文が縦・斜めに施される。40は円形刺突と貝殻腹縁圧痕、41は刺突と貝殻腹縁圧痕が施される。42～44は同一個体で、口唇部に刺突、口縁部内外面に貝殻腹縁圧痕が施され、外面下位には縦方向の条痕がみられる。45～49は同一個体で、外面には横・縦・斜位に平行沈線、沈線間には連続する刺突が施され、口縁部内外面には貝殻腹縁圧痕が施される。42～44の一群と 45～49の一群は、小波状で外反する口縁部の形態と内外面に貝殻圧痕を有する点で類似する。50～53は同一個体で、外面は縦～斜方向、内面は斜～横方向の条痕が施される。体部片のみで器形は不明であり、器壁が薄く、胎土が脆い。39は早期中葉、40～53は早期中～後葉と考えられる。

[B区] 118は口縁～体部、119は尖底の底部で、同一地点で出土したが接合はしない。118はR L、119はL Rの原体で施文される。いずれも胎土に繊維を含み、早期末葉と考えられる。

[C区] 1199は尖底の深鉢で、4単位の波状口縁である。体部はR(0段3条)を用い、横方向に施文されるが、底部付近は回転方向が変わる。早期末葉と考えられる。

② 前期

[遺構内] 117(S K 103出土)は隆帯上に刻みが施され、その下位には山形の浅い沈線が横方向に施される。前期前葉と考えられる。

[A区] №54～67。54は縦位の燃糸文が施される。55・56は羽状縄文で、55はループ文を含み、56は菱形状となる。58は縄文の施文方向が不整である。59は上位が単節のL・Rによる羽状縄文、下位がR Lで、底部付近では不整燃糸文が施される。60は縦方向の羽状縄文である。62は網目状燃糸文、63は地文上に横位の結節回転文、64は鋸歯状の沈線と縦の刻みが施される。65・66は同一個体で、口縁に沿った刺突が2列施される。67も刺突が2列確認できる。54～67は胎土に植物繊維を含み、前期前葉と考えられる。

[B区] 120～122はいずれも底部付近のみである。繊維を含み、前期前葉と考えられる。

③ 中期

[遺構内] 2(S I 101)は縦方向の隆沈線がみられ、中期後葉と考えられる。

[A区] №68～96。68は口縁に沿った押し沈線が3条あり、下位は地文上に横位の結節回転文がみら

れる。69・70は山形の口縁に沿って数条の沈線があり、69は縦方向にも梯子状の沈線が加わる。71・72は地文上に平行沈線が施される。73・74は同一個体で、口縁に沿った隆帯上に刻みがあり、その下には横位の結節回転文が施される。75は隆帯上に指頭圧痕がある。76・77は同一個体で、口縁に沿って刺突が2列施される。78は沈線の上下に刺突列が巡る。79は外側へ屈曲する器形で、隆線による区画内部に刺突がある。80は隆線で横方向に区画され、その上位が無文、下位が地文となる。81は沈線により横方向に区画される。82は口縁に沿って2条の隆線が巡る。83は口縁部の有孔突起で、下部には刺突が施される。84は隆線により区画される。85は口縁付近に太い隆帯による渦巻文、86は紐の貼付による細い渦巻文がある。87～93は隆線による区画内部に縄文が施される。91は「U」字形の区画であり、92は隆帯が耳状の突起となる。94～96は沈線による区画内部に縄文が施される。68～77は中期前葉、78～88は中期中葉、89～96は中期後葉と考えられる。

[B区]123は細い隆帯、124は隆線、125は沈線で、横方向と縦方向のものが直交する。126は横方向の沈線がある。127・128は屈曲する口縁部で、127は口唇付近に刺突、隆線区画内に縦の縄圧痕が施され、128は太い刻目列が口縁を巡る。129は口唇上面に沈線が巡り、その下位は無文である。130・131は口縁が2段に肥厚する。132は口唇に細かい刻みがある。133は内湾する口縁部で、地文を扶むように横位の沈線が巡る。134・135は口唇部に隆帯による渦巻文が施される。136・137は沈線区画内部に縄文が充填される。123～126は中期前葉、127～135は中期中葉、136・137は中期後葉と考えられる。

④ 後期

[遺構内]4・5(S K 101)、15(S K 102)、21(S K 108)は地文上に沈線・磨消の区画が施される。4・15は区画の端部に円形の刺突がある。いずれも後期前葉と考えられる。

[A区]97・98は地文上に沈線が横・縦・斜め方向に施され、区画された三角形の内部が磨り消される。99・100は地文がなく、沈線のみで区画される。いずれも後期前葉と考えられる。

[B区]138はクラック状、139は弧状・小円状の沈線が描かれる。140～145は弧状・直線状の沈線区画に加えて、貼瘤が施される。138～140は後期前葉、141～145は後期後葉と考えられる。

⑤ 晩期

[遺構内]31・32(S K 128)、38(S K 132)は鉢の口縁部で、31は口縁部に平行沈線、32・38は羊歯状文が施される。いずれも晩期中葉と考えられる。

[B区]146～153は深鉢または鉢である。146は口唇部に刻みと突起、頸部に工字文状の隆帯と突起を有し、体部は磨消による雲形文となる。147は口縁部に沈線による曲線文が描かれ、体部は地文のみである。148・149は浅鉢で、口唇部に沈線がある。150・151は口縁部に平行沈線、152は口縁部に刺突列と沈線が巡る。153は磨消による雲形文が施され、外面に赤色顔料が付着する。154～157は台付鉢である。154は口唇部に刺突と突起があり、口縁部の平行沈線間に刺突が施され、体部は地文のみである。155～157は台部のみである。157は沈線を境にミガキによる無文部と地文部に分かれる。158～164は壺である。158～160は同一個体の広口壺で、口唇部は刻み、頸部は無文、肩部は羊歯状文、体部は磨消による雲形文となる。162は工字文状の隆帯と突起があり、突起部分に横方向の貫通孔がある。163・164は小形壺の体部で、磨消による雲形文が施される。165・166は小片で、165は皿の底部付近、166は注口土器の体部と推定される。いずれも晩期中葉と考えられる。

⑥ 時期不明

[遺構内]1(S I 101)は小形土器の底部である。3(S F 101)は埋設土器で、平底であるが底面がやや丸みを帯び安定しない。6～9(S K 101)は深鉢の口縁部で、無文帯に沿って縄圧痕や沈線がみられる。10～12は深鉢の底部で、10・11は底面に木葉痕、12は網代痕が確認できる。13・14(S K 102)は無文帯

のある口縁部である。16(S K 102)、18(S K 104)、19・20(S K 107)、22(S K 110)は深鉢の底部で、19・22は底面に網代痕が確認できる。23・24(S K 111)は深鉢の体部片で同一個体であり、底部付近がミガキにより無文となる。25(S K 117)、26(S K 126)は地文のみの口縁部である。27(S K 126)はミニチュア土器の底部である。28(S K 127)は小波状の口縁部で、口縁に沿った弧状の沈線と刺突が施される。29(S K 127)は地文上に横位の結節回転文がみられる。30(S K 127)、35-37(S K 128)は深鉢の底部、33(S K 128)は深鉢の口縁部付近である。

[A 区]101-104は口縁部片で、101は網目状摺糸文、102は不整摺糸文、103・104は無文である。104は壺の口縁部とみられる。105-109は体部片で、縄文のみである。110-117は底部片で、110・111は底面に木葉痕、112・113は網代痕が確認できる。

[B 区]167-172は地文のみの口縁部片で、167と168、170と171はそれぞれ同一個体である。173-177は無文の口縁部で、173と174、175と176はそれぞれ同一個体である。いずれも口縁部が内湾する器形であるが、173・174は口唇部が平坦で、175・176はやや先細りとなる。177は口唇部に指頭圧痕が施され、頸部は無文である。178-182は地文のみの体部片である。183-186は体-底部で、183・184は底部付近が無文となるのに対し、185・186は底部まで縄文が施文される。187-197は底部のみで、187と188は底面に木葉痕が確認できる。198は台付土器の台部で、地文が僅かに確認できる。

(2) 石 器 (第26-36図、写真図版30-36)

129点を掲載した。剥片石器と礫石器があり、剥片石器は112点(2,146.8g)、礫石器は16点(35714.7g)である。剥片石器は、石鏃、尖頭器、石錐、石匙、石鏡、削掻器類、異形石器、打製石斧があり、礫石器は、敲磨器類、台石、石皿がある。これら以外に、剥片8,129.3g、石核6点(2,182.1g)が出土し、石核は1点(125)を図化した。

石器は、出土地点により遺構内・遺構外に分け、遺構内出土分は遺構別、遺構外出土分は器種別に分けて掲載した。石鏃と石匙はさらに形態別に分類している。遺構内で出土したものは少なく、大半が遺構外からの出土である。

石質は、頁岩、珪質頁岩、赤色頁岩、安山岩、凝灰岩、砂岩、デイサイトなどがあり、剥片石器は殆どすべて頁岩製である。産地は奥羽山脈、時代は新生代新第三紀のものが大半を占める。

① 石 鏃

27点掲載した(遺構内:6、遺構外:21-46)。基部の形態により、有茎12点(6・21-31)、無茎凹基7点(32-38)、無茎平基7点(39-45)、不明1点(46)に分類した。A区遺構外で出土した14点中13点は無茎であり、B区遺構外で出土した9点中8点是有茎である。

② 尖 頭 器

A区遺構外で1点出土した(47)。先端部・基部ともに欠損により不明である。

③ 石 錐

7点掲載した(遺構内:1・10、遺構外:48-52)。つまみを有するものとそうでないものとが見られる。

④ 石 匙

26点掲載した(53-78)。すべて遺構外出土である。つまみの位置により、縦型(53-67)、横型(68-74)、斜型(75-78)に分類できる。大半は片面加工だが、両面加工のものも数点ある。形態は、四角形、三角形、楕円形、柳葉形、半月形、扇形など多様である。70はつまみ部分にアスファルトが付着していた。

⑤ 石 寬

20点掲載した(遺構内:13、遺構外:79~97)。左右対称で一端が広がる形態のもので、両面加工と片面加工のものがある。遺構外出土の19点中17点はA区出土である。

⑥ 削 掻 器 類

29点掲載した(遺構内:2・11・12、遺構外:98~123)。上記以外の不定形の石器をここにまとめている。形態は、楕円形、半月形、柳葉形、不整形など多様であり、両面加工と片面加工のものがある。

⑦ 異 形 石 器

A区遺構外で1点出土した(124)。上部につまみがあり、下部は2又に分かれる。

⑧ 打 製 石 斧

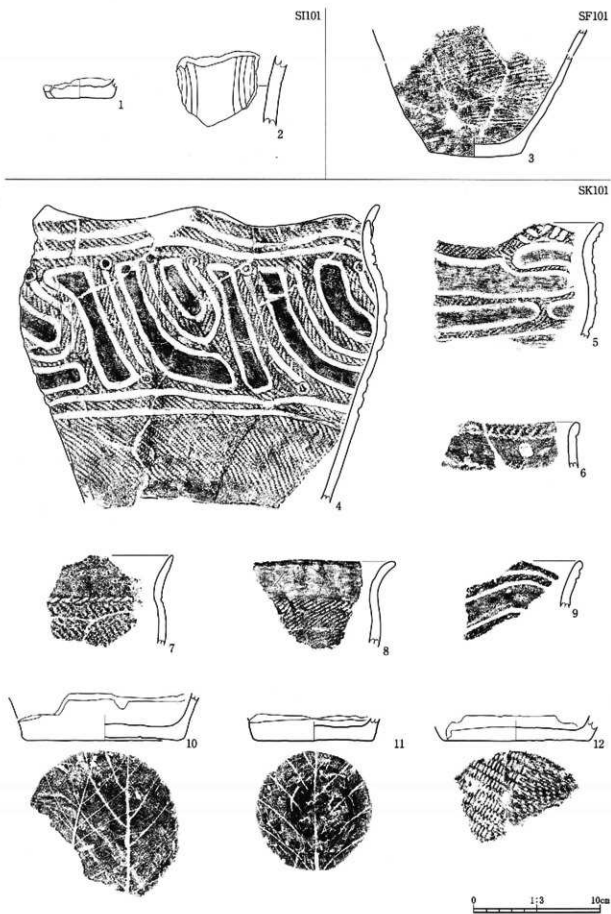
A区遺構外で1点出土した(126)。敲打調整により側縁部に刃部を有する。

⑨ 敲 磨 器 類

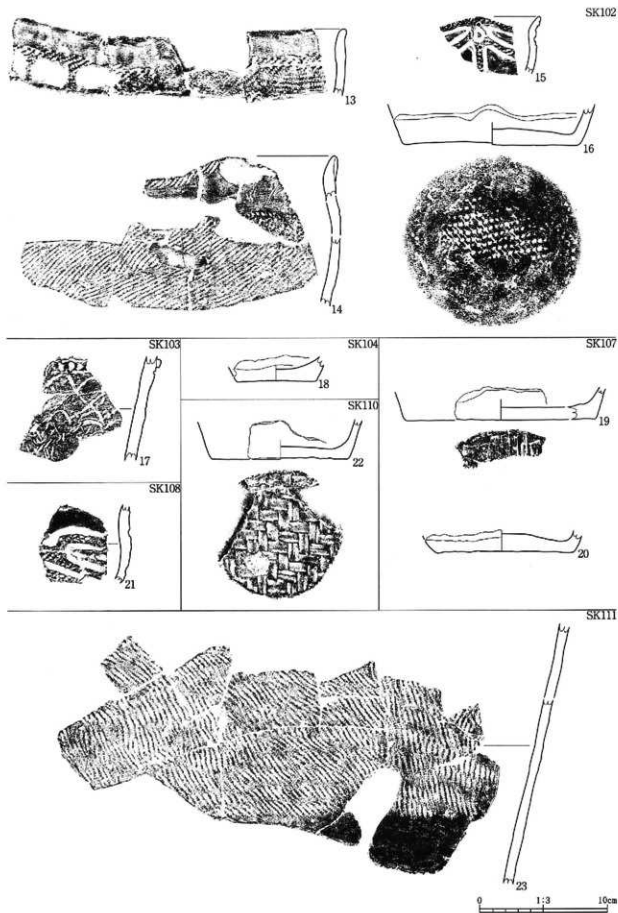
凹痕・磨痕を有するものをまとめた。10点掲載した(遺構内:7・14~18・20、遺構外:127~129)。凹痕はすべてにみられ、磨痕があるのはこのうち3点(7・14・127)である。

⑩ 石 皿 ・ 台 石 類

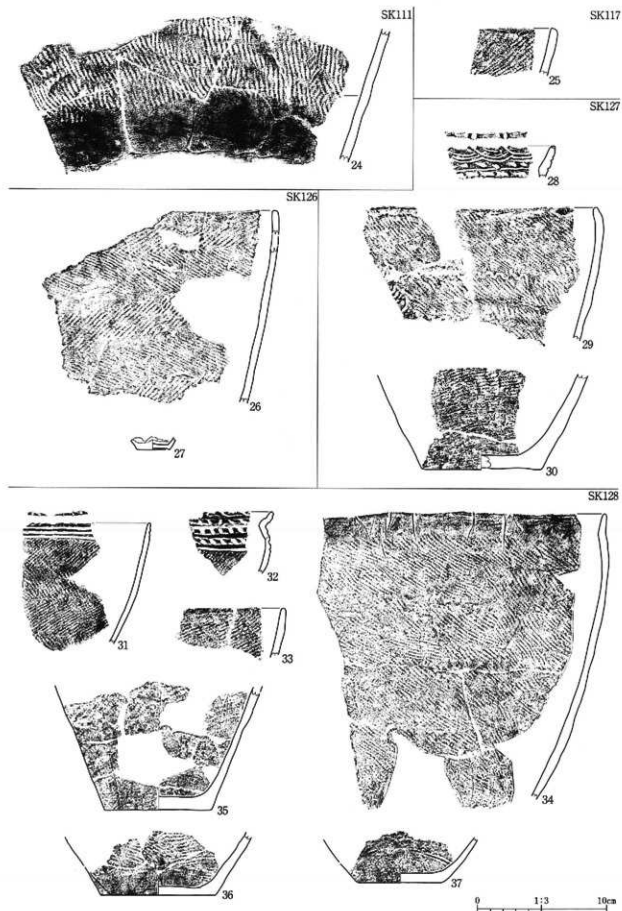
6点掲載した(3~5・8・9・19)。すべて遺構内出土である。成形加工したものを石皿、明瞭な加工痕がなく使用痕のみ確認できるものを台石とした。5・8・19は石皿で、いずれも表に凹面が形成されている。3・4・9は台石で、3は磨痕、4は敲痕と擦痕、9は縦条痕が確認できる。4・5は、S I 101堅穴住居跡で炉石に転用されていたもので、5には被熱痕がみられる。



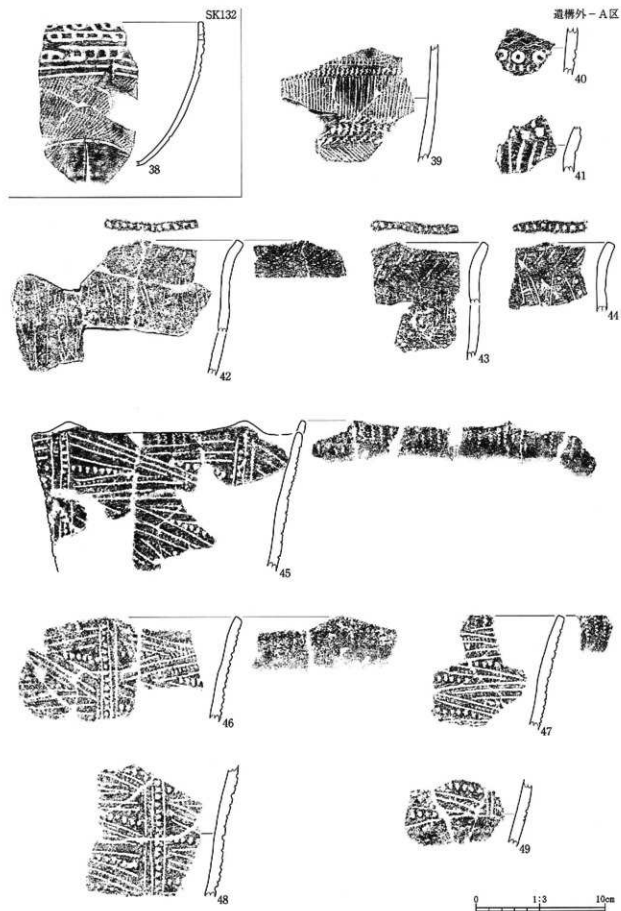
第13図 縄文土器①



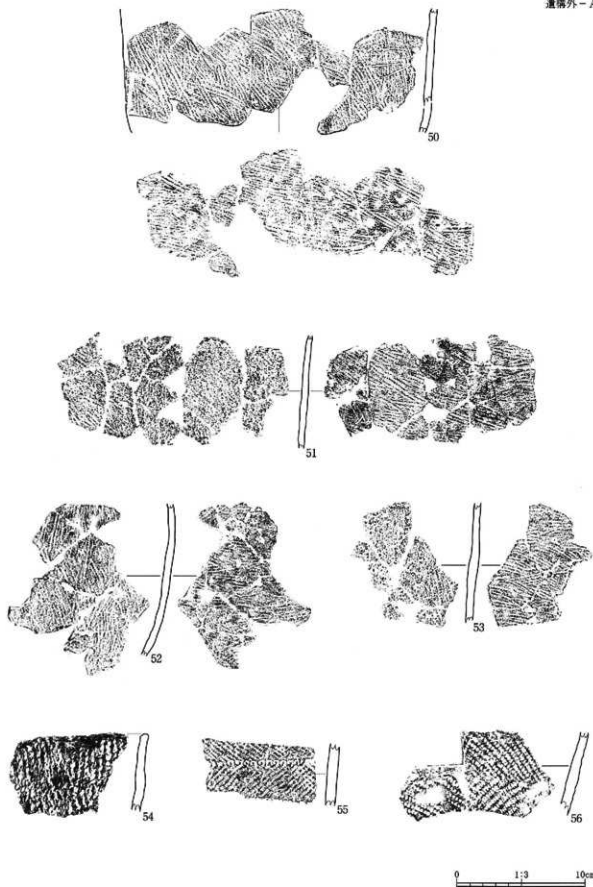
第14図 縄文土器②



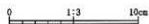
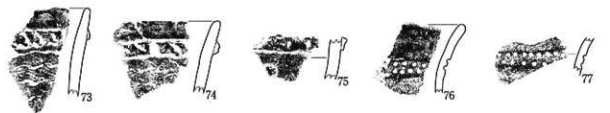
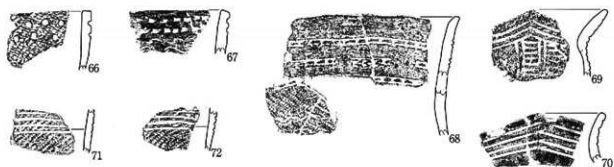
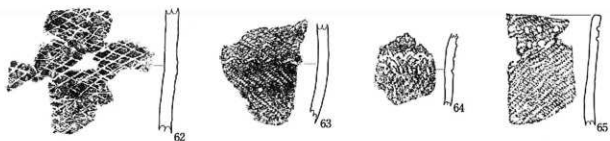
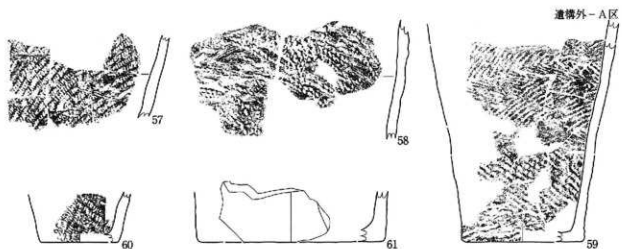
第15圖 縄文土器③



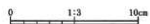
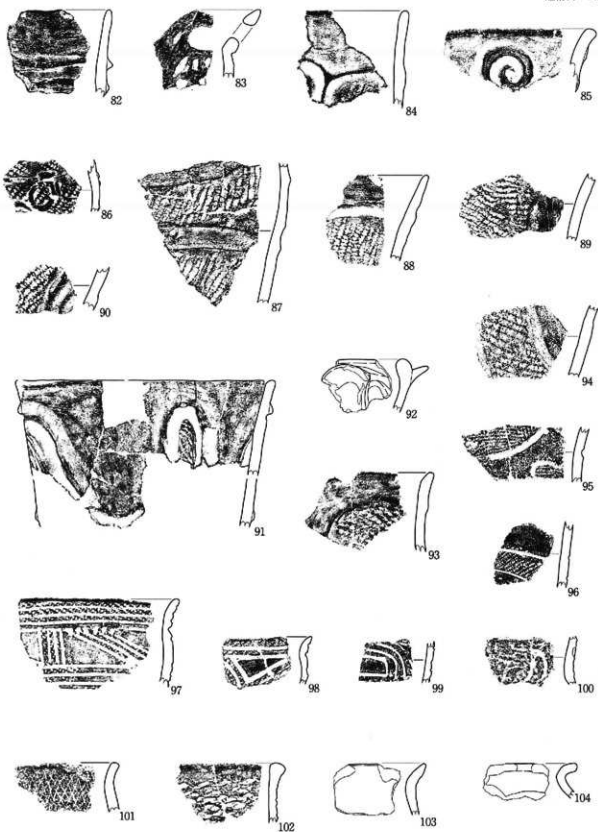
第16図 縄文土器④



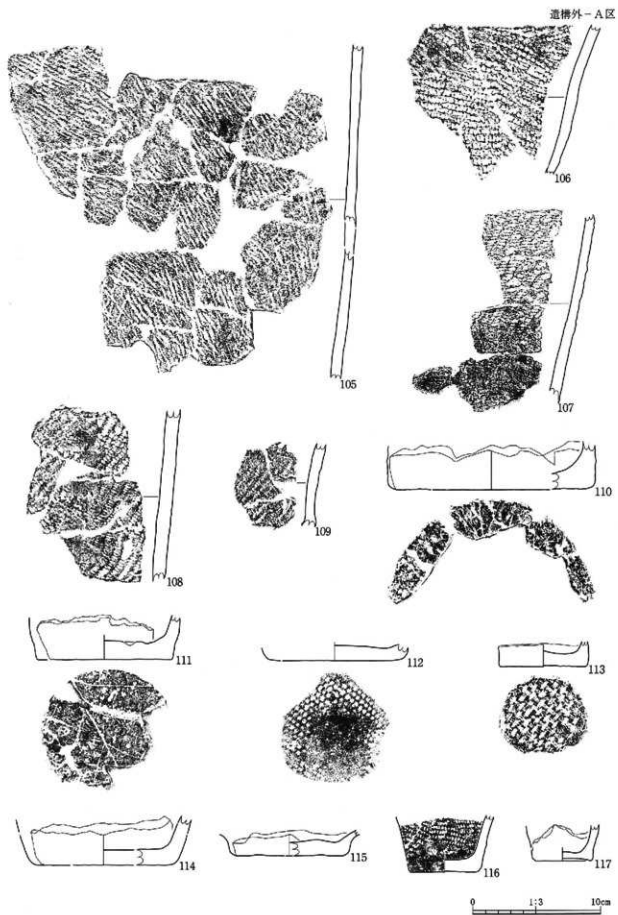
第17図 縄文土器⑤



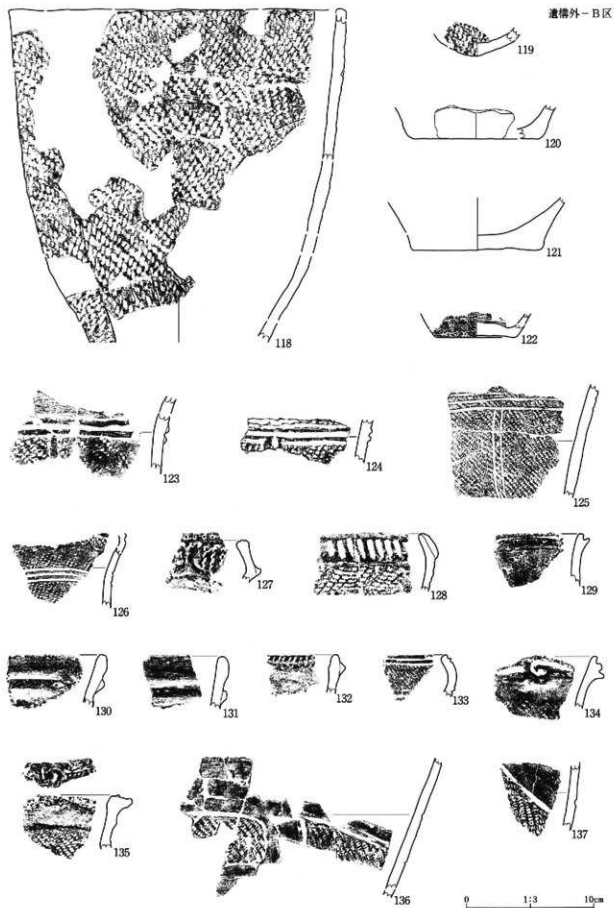
第18図 縄文土器⑥



第19図 縄文土器⑦

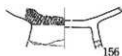
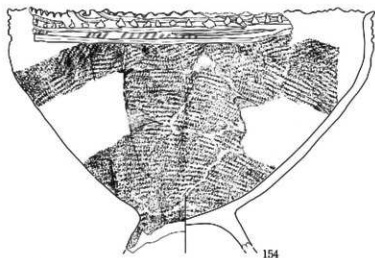
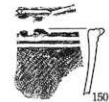
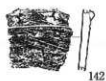


第20図 縄文土器⑥



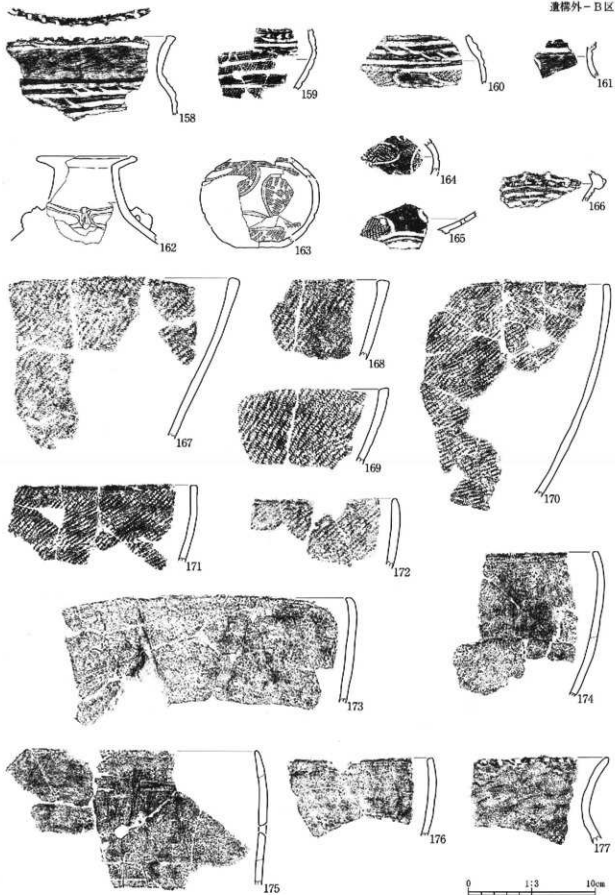
第21図 縄文土器⑨

遺標外-B区

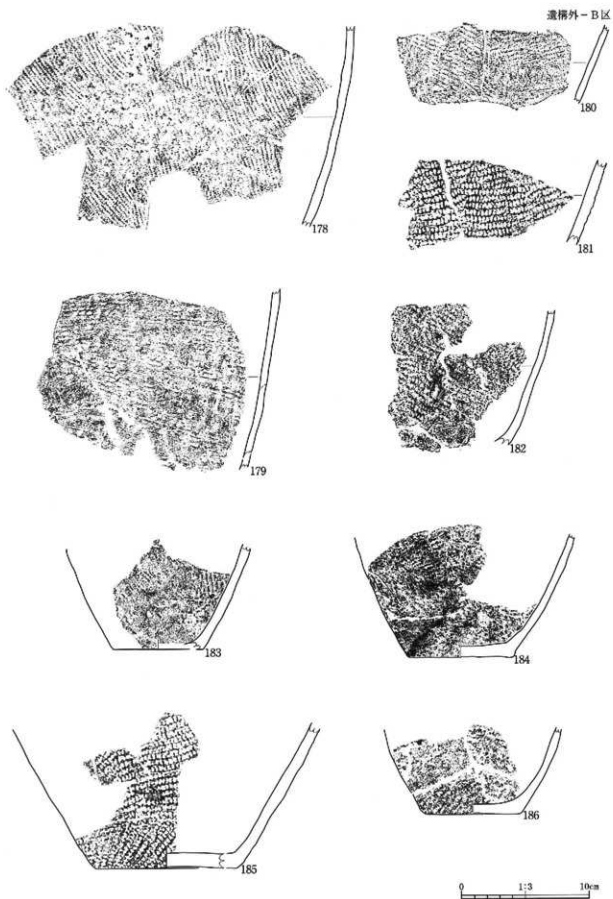


0 1:3 10cm

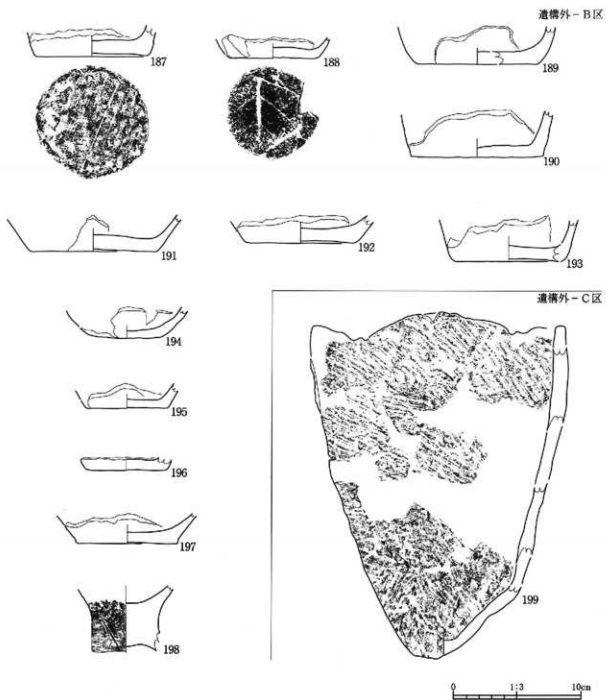
遺構外-B区

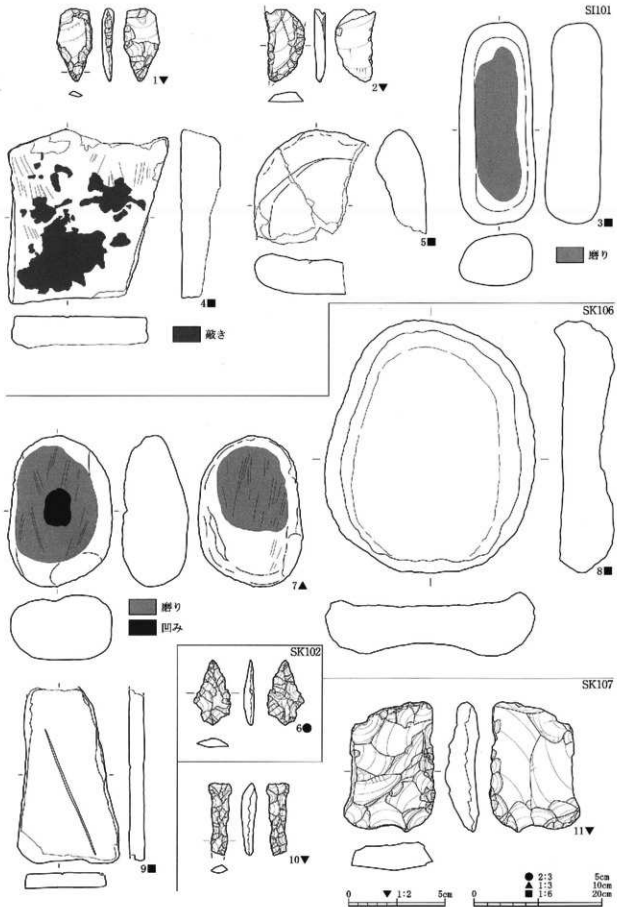


第23回 縄文土器①

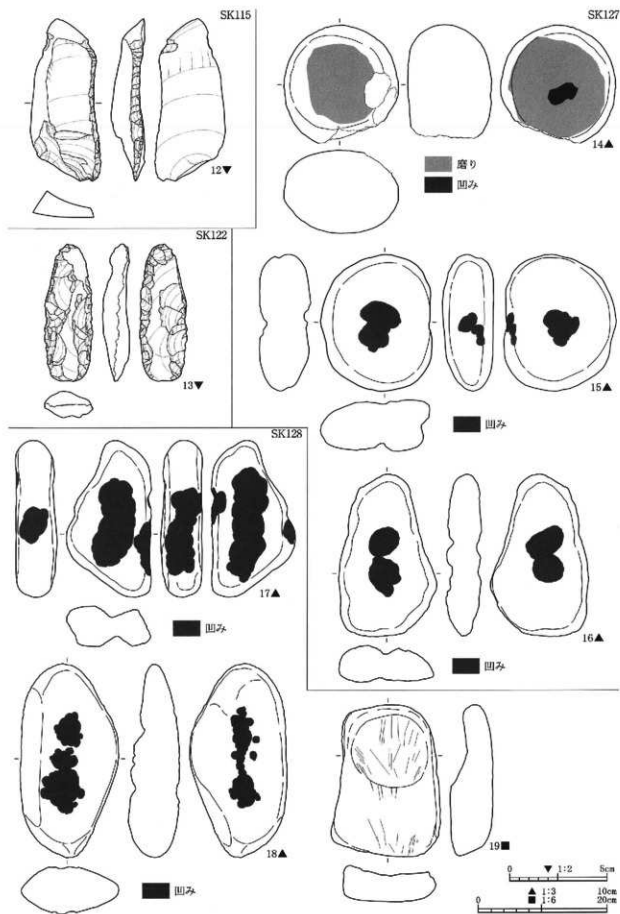


第24図 縄文土器②

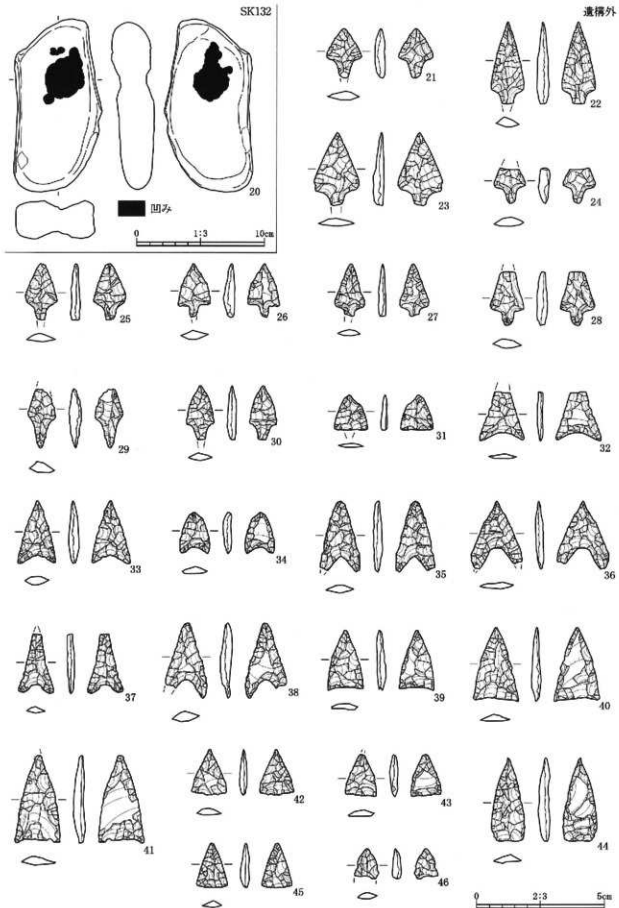




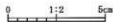
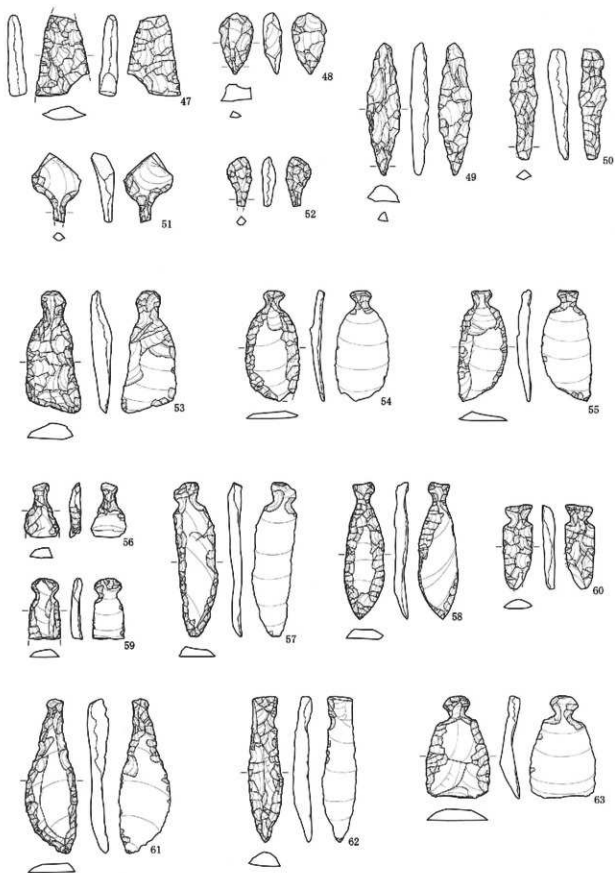
第26図 石器①



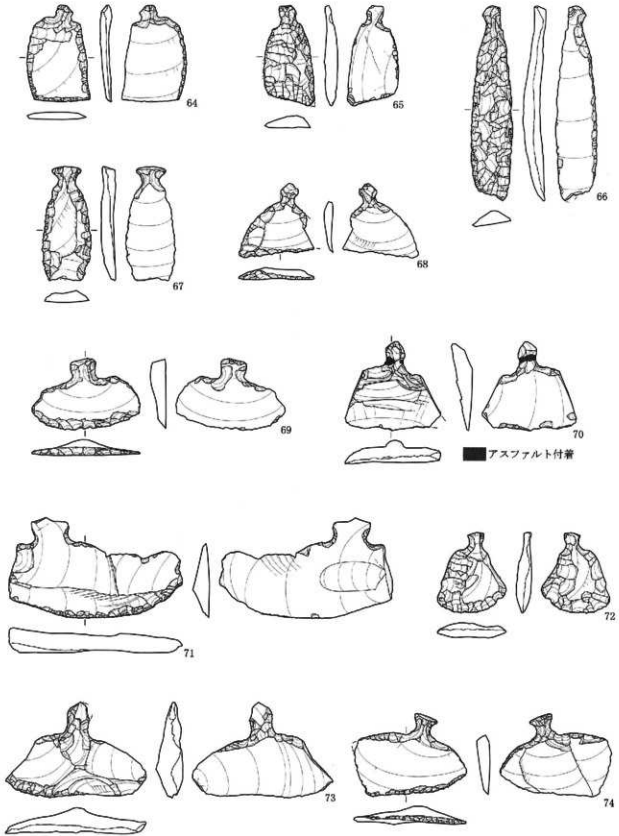
第27図 石器②



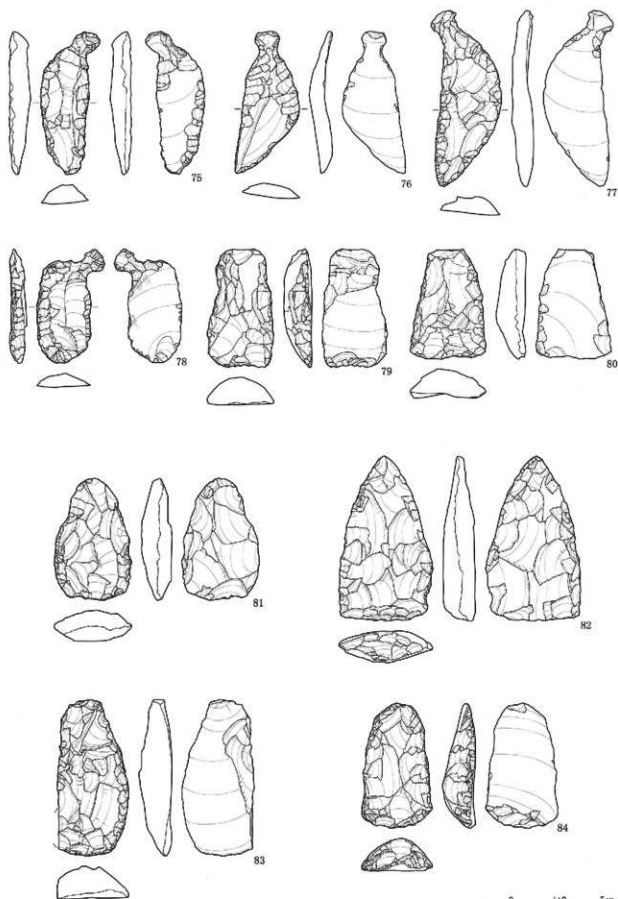
第28図 石器③



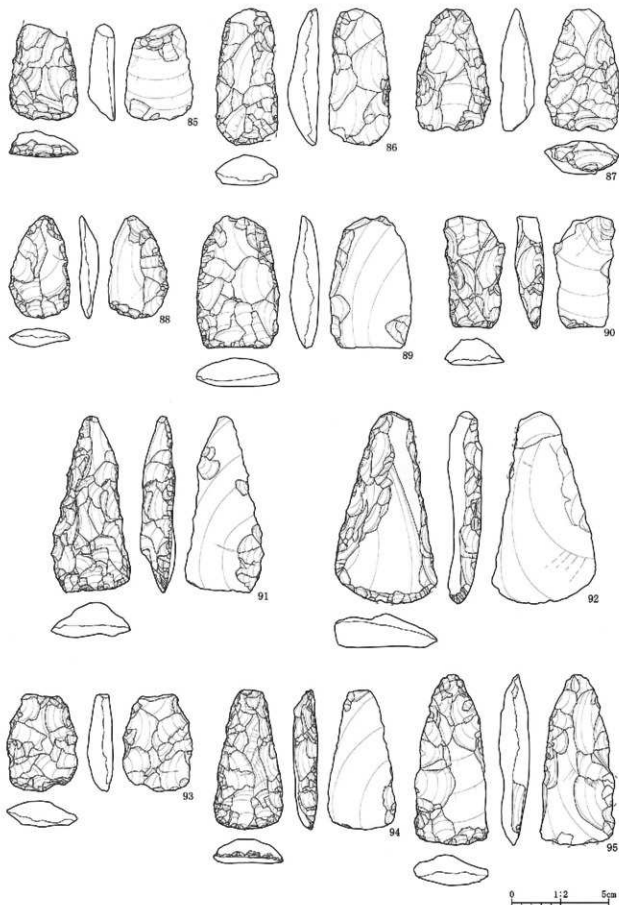
第29圖 石器④



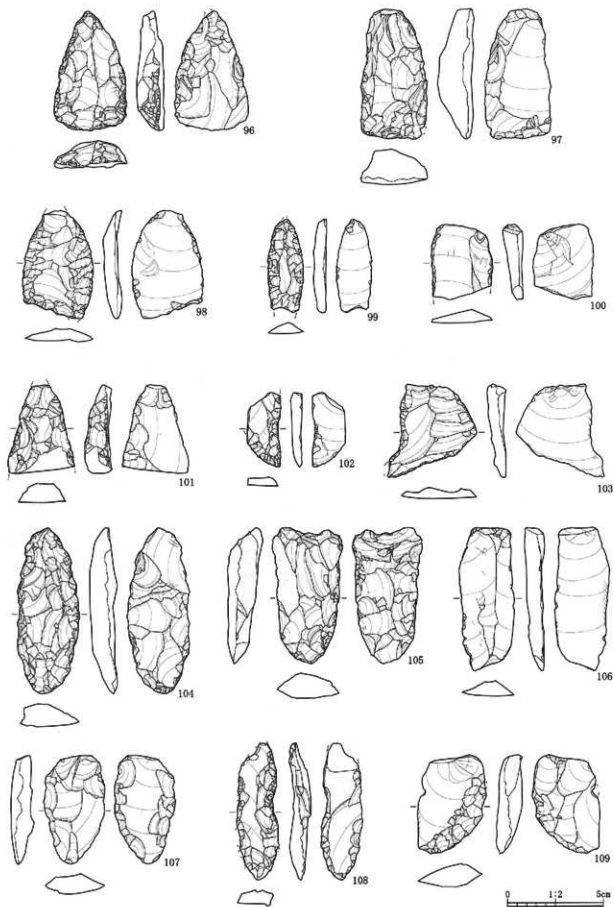
0 1:2 5cm



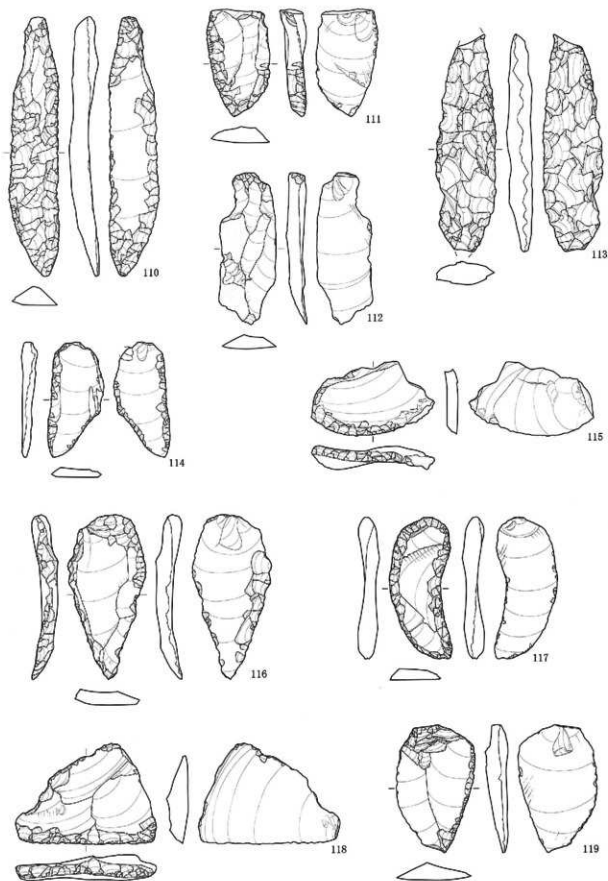
第31図 石器⑥



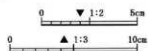
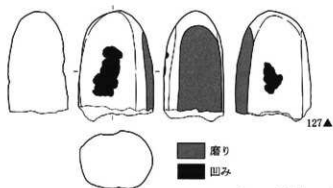
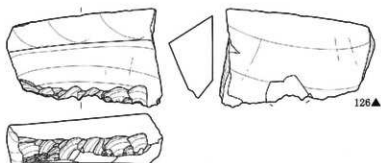
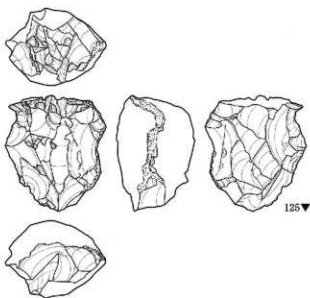
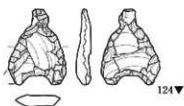
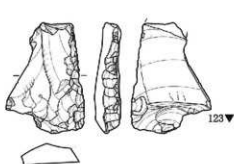
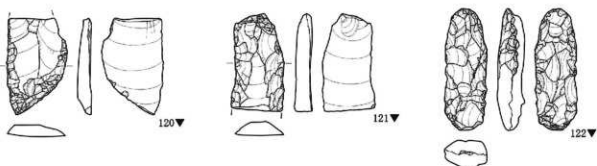
第32図 石器⑦



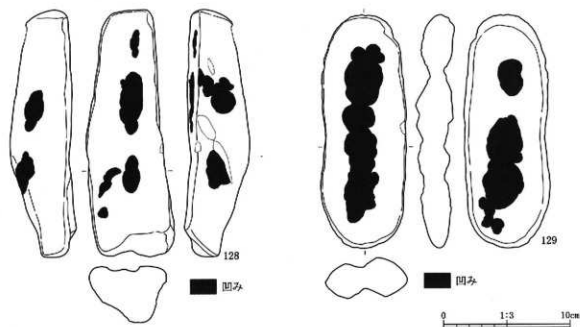
第33圖 石器⑧



第34図 石器⑨



第 35 図 石器⑩



第36図 石器①

第2表 出土地点別遺物重量計測表

遺構名	縄文土器 %	石器%	縄文土器 (g)	燧石 (g)	燧石 (g)	燧石・石核 (g)	備考
SI01	1-2	1(石鏃)・2(副鏃)・3・4(台石)・5(石皿)	3991	85	12058	411	
SF101	3		3881				段段土器
SN101							遺物なし
SN102							遺物なし
SN104							遺物なし
SK101	4-12		30389				
SK102	13-16	6(石鏃)	14727	1.1		369	
SK103	17		3270			23	
SK104	18		1659			11.1	
SK105			438			8.9	
SK106		7(段段土器)・8(石皿)・9(台石)	419		16402	34	SI-53
SK107	19-20	10(石鏃)・11(副鏃)	519.5	53.9		8437	石鏃824.5g(1点)骨心
SK108	21		362.2			1.6	
SK109			283.0			133	
SK110	22		153.7				
SK111	23-24		587.6				
SK112							遺物なし
SK113							遺物なし
SK114			78.6				
SK115		12(副鏃)		37.8			
SK116			50.4				
SK117	25		36.1				
SK118			7.1				
SK121							遺物なし
SK122		13(石鏃)		22.2			
SK125							遺物なし
SK126	26-27		122.6			3.1	
SK127	28-30	14-16(段段土器)	1261.6			1491.0	
SK128	31-37	17-18(段段土器)・19(石皿)	1366.6		3751.4	126.0	
SK130			145.7				
SK131							遺物なし
SK132	38	20(段段土器)	55.4		3107	80.8	
SK133							遺物なし
SK134			87.4				
SK135			53.5				
SK136							遺物なし
SK137							遺物なし
SK138					34.4		
A区遺構外	39-117	21-32-37-39-43(石鏃)・47(尖頭鏃)・48-50(石鏃)・53-55-58-59-75-76(石鏃)・79-80(石鏃)・88-112(副鏃)・124(骨心)・126(石鏃)・136(石鏃)・138-140(石鏃)・142-143(石鏃)・145-146(石鏃)・148-149(石鏃)・151-52(石鏃)・66-70-72-77-78(石鏃)・86(石鏃)・113-118(副鏃)・127-129(段段土器)	283961	1488.3		65131	石鏃1387.6g(5点)含む 副鏃石片8.2g含む
B区遺構外	118-198		225409	338.8	1263.7	1700.2	
C区遺構外	199		1306.3				
区域外・レンヂ		73(石鏃)・119-120(副鏃)	986.3	62.0		391.0	
区域外・表掘		30-31-38(石鏃)・67-74(石鏃)・87(石鏃)・121-123(副鏃)	62.6	136.2		965.9	副鏃石片1.4g含む
計			64387.9	2146.5	3714.7	10311.4	

第3表 縄文土器観察表①

No.	出土地点	層位	器種	保存部位	文様・特徴	時期	備考
1	SK101 青柳	埴土	小形深鉢	底面	-		
2	SK101 青柳	埴土	深鉢	底部	作：縄文様(縦)		
3	SP101	埴土	深鉢	作-底面	作：L.R(横一斜)、底部付近無文		中期後葉
4	SK101	表面 R1内	深鉢	口縁-作部	表裏口縁/体：R.L(横一斜)→平行沈線(断面) / L.R(字区線)、凸形刻痕		後期前葉
5	SK101 青柳	埴土下位	深鉢	口縁部	表裏口縁/口縁：L.R(横)→沈線(断面形)、表裏部付近無文		後期前葉
6	SK101 北郷	埴土下位	深鉢	口縁部	表裏口縁/口縁：L.R(横)、L.R(字区線)、無文		後期前葉
7	SK101 北郷	埴土下位	深鉢	口縁部	口縁：無文文、R.L(字区線) / 体：R.L(横)		後期前葉
8	SK101 青柳	埴土下位	深鉢	口縁部	口縁：無文、作：L.R(横)		後期前葉
9	SK101 青柳	埴土上位	深鉢	口縁部	表裏口縁/口縁：L.R(横?)、平行沈線、無文		後期前葉
10	SK101 北郷	埴土下位	深鉢	底部	底：木裏焼		後期前葉
11	SK101	埴土下位	深鉢	底部	底：木裏焼		
12	SK101 北郷	埴土下位	深鉢	底部	底：銅代灰		
13	SK102 南郷	埴土上中	深鉢	口縁部	表裏口縁/口縁：無文/体：L.R(横)		後期前葉
14	SK102 南郷	埴土上中	深鉢	口縁部	表裏口縁/口縁：L.R(横)、無文、L.R(字区線)/体：L.R(横)		後期前葉
15	SK102 北郷	埴土上中	深鉢	口縁部	表裏口縁/口縁：R.L(横一斜)→沈線、垂文、刺突		後期前葉
16	SK102 南郷	埴土上中	深鉢	底部	底：銅代灰		後期前葉
17	SK103	埴土	深鉢	底部	底：深部→断面、弱い沈線(山形)		前期前葉
18	SK104	埴土	深鉢	底部	底：銅代灰		
19	SK107	埴土	深鉢	底部	底：銅代灰		
20	SK107	埴土	深鉢	底部	-		
21	SK108	埴土	深鉢	底部	体：沈線内 R.L(横)		後期前葉
22	SK110	埴土	深鉢	底部	底：銅代灰		
23	SK111	埴土上中	深鉢	底部	体：R.L(横一斜)、底部付近無文		A 区中央道路跡と整合 23-24時、埴土ス付着
24							
25	SK117	埴土	深鉢	口縁部	口縁：L.R(横)		
26	SK126	埴土	深鉢	口縁-体部	口縁：無文、体：L.R、R 羽状赤線(横)		埴土ス付着
27	SK126	埴土 [土手、下土]	深鉢	底部	-		
28	SK127	埴土	深鉢?	口縁部	小波状口縁/口縁：沈線(横状)、刺突2列		
29	SK127	埴土	深鉢	口縁-体部	口縁-体部：R.L + R.L 結束2列(横)		B 区新開中央置層と整合、 外周ス付着
30	SK127	埴土	深鉢	作-底面	作：L.R(横)		外周ス付着
31	SK128	埴土	深鉢	口縁-体部	口縁：断面、口縁：平行沈線/体：L.R、R 羽状赤線(横)		中期前葉
32	SK128	埴土	深鉢	口縁部	口縁：手書文、沈線/体：L.R(横)		中期前葉
33	SK128	埴土	深鉢	口縁部	口縁：L.R(横)		外周ス付着
34	SK128	埴土	深鉢	口縁-体部	口縁：無文/体：R.L(横)		外周ス付着
35	SK128	埴土	深鉢	作-底面	作：R.L(横)、底部付近無文		外周ス付着
36	SK128	埴土	深鉢	底部	体：R.L(横)、底部付近無文		
37	SK128	埴土	深鉢	底部	-		
38	SK132	赤陶	鉢	口縁-体部	口縁：平直文、沈線/体：L.R(横)、底部付近無文		中期前葉
39	A 区 BT90-04(覆)	II層	深鉢	体部	体：刺突、細沈線(格子目状)、貝殻線(横)、赤灰(縦一斜)		中期前葉
40	A 区北郷	II層	深鉢	体部	体：刺突(凸形)、貝殻線(横)		中期中-後葉
41	A 区 BT91-02	II層	深鉢	体部	体：刺突、貝殻線(横)		中期中-後葉
42	A 区 BT91-02(覆)	II層	深鉢	口縁-体部	口縁-体部		
43	A 区 BT91-02	II層	深鉢	口縁部	表裏口縁/口唇：断面/口縁：内外周貝殻線(縦) / 体：赤灰文(縦)		中期中-後葉 42-44時
44	A 区 BT91-02	II層	深鉢	口縁部	口縁-体部		
45							
46	A 区 BT90-00中央	II層	深鉢	口縁部	小波状口縁/口唇：内外周貝殻線(縦)、平行沈線(縦一斜)、沈線(縦)に刺突列		中期中-後葉 45-46時
47							
48							
49							
50							
51	A 区 BT91-02(覆)	II層	深鉢	体部	体：赤灰文(外周は縦一斜、内周は横一斜)		中期中-後葉
52							
53							
54	A 区中央道路跡	II層	深鉢	口縁部	口縁：垂線 R.L(縦)		前期前葉
55	A 区 BT90-04(覆)	II層	深鉢	体部	体：R.L + L.R 羽状赤線(縦)、ループ文		前期前葉
56	A 区北郷(覆)	II層	深鉢	体部	体：R.L + L.R 羽状赤線(横)		前期前葉
57	A 区 BT90-04(覆)	II層	深鉢	体部	体：L.R(横)		前期前葉
58	A 区北郷(覆)	II層	深鉢	体部	体：R.L(横)		前期前葉
59	A 区北郷	II層	深鉢	体-底部	体：上波 L、R 羽状赤線(横)、下波 R.L(横)、底部付近無文		前期前葉
60	A 区 BT90-03(覆)	II層	深鉢	体-底部	体：上波 L、R 羽状赤線(横)		前期前葉
61	A 区北郷(覆)	II層	深鉢	底部	底：赤灰、L.R 羽状赤線(縦)		前期前葉
62	A 区北郷(覆)	II層	深鉢	体部	体：赤線5列		前期前葉
63	A 区 BT91-02	II層	深鉢	体部	体：R.L(横)、底部付近無文		前期前葉
64	A 区 BT91-02(覆)	II層	深鉢	体部	体：L.R(横)、底部付近無文、刺突(縦)		前期前葉
65							
66	A 区 BT90-03	II層	深鉢	口縁部	口縁：R.L(横)、刺突2列(横)		前期前葉
67	A 区北郷(覆)	II層	深鉢	口縁部	口縁：平行沈線(横)、S 字状垂線沈線		前期前葉
68	A 区 BT91-02(覆)	II層	深鉢	口縁部	口縁：平行沈線(横) / 体：R.L(横)、底部付近無文		中期前葉
69	A 区 BT91-02(覆)	II層	深鉢	口縁部	表裏口縁/口唇：平行沈線(縦一横)		中期前葉

第3表 縄文土器観察表②

No.	出土地点	層位	器種	残存部位	文様・特徴	時期	備考
70	A区中央道路南	Ⅱ層	深鉢	口縁部	波状口縁/口縁：平行波線(横)	中期前期	内蔵スズ付着
71	A区BT91		深鉢	底部	体：平行波線・LR(横)	中期前期	
72	A区BT91-92沢橋	Ⅱ層	深鉢	底部	体：平行波線・LR(横)	中期前期	
73							
74	A区BT94-95風洞木		深鉢	口縁部	口縁：隆帯→割糸・結節凹線文(横)	中期前期	73-74同一
75	A区BT94-95風洞木		深鉢	底部	口縁：隆帯→割糸	中期前期	
76							
77	A区BT94-95風洞木		深鉢	底部	口縁：割糸2回(横)	中期前中	76-77同一
78	A区BT93-94	Ⅱ層	深鉢	底部	体：割糸1回・波線(横)	中期中葉	
79	A区BT92-93	Ⅱ層	深鉢	底部	体：波線区画内割糸・LR(縦)	中期中葉	
80	A区BT95より南	Ⅱ層	深鉢	底部	体：波線区画(横)・LR(縦)	中期中葉	
81	A区BT93-94	Ⅱ層	深鉢	底部	体：波線区画内LR(縦)	中期中葉	
82	A区沢の西側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：隆帯(縦)2本	中期中葉	
83	A区BT91		深鉢	口縁部	波状口縁/口縁：貫通孔・割糸	中期中葉	
84	A区常備	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：隆帯区画内LR(縦)	中期中葉	
85	A区南端S101付近	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：隆帯(横巻文)	中期中葉	
86	A区沢の西側	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦・横)→細い隆帯(横巻文)	中期中葉	
87	A区南端S101付近	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦)・波線(横)	中期中葉	外蔵スズ付着
88	A区BT95より南	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：無文/体：波線(横)・LR(縦)	中期中葉	
89	A区BT95より南	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦)・波線(横)	中期後葉	
90	A区BT94-95	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦)・波線(横)	中期後葉	
91	A区BT93-94付近	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁一体：波線区画内LR(縦)・LR(横)	中期後葉	BT93-95中央道路と統合
92	A区BT94-95	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：波線	中期後葉	
93	A区南端	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：隆帯区画内単線LR(横)	中期後葉	外蔵スズ付着
94	A区BT95より南	Ⅱ層	深鉢	底部	体：波線区画内LR(横)	中期後葉	外蔵スズ付着
95	A区BT94-95風洞木		深鉢	底部	体：波線区画内LR(縦)	中期後葉	
96	A区沢の西側	Ⅱ層	深鉢	底部	体：波線区画内LR(横)	中期後葉	
97	A区中央道路南	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：LR(縦)→平行波線(横・斜)→三角区画内断続的割糸	後期前葉	
98	A区BT91-92道路南	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：LR(縦)→平行波線(横・斜)→三角区画内断続的割糸	後期前葉	
99	A区中央道路南	Ⅱ層	深鉢	底部	体：波線	後期前葉	
100	A区BT90-91	Ⅱ層	深鉢	底部	体：波線	後期前葉	
101	A区BT94-95沢橋	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：単線5回		
102	A区北端道路南	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：不整断糸文(横)		
103	A区BT91-92沢橋	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：無文		
104	A区BT91		深鉢	口縁部	口縁：無文		
105	A区北端沢橋(調査区画)	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦)		
106	A区南端S101付近	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(横)		
107	A区BT91		深鉢	底部	体：LR(縦)・底部付近無文		
108	A区BT90-91	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦)		
109	A区BT93-94	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦)		
110	A区北端沢橋	Ⅱ層	深鉢	底部	底：木炭痕		
111	A区BT91-92	Ⅱ層	深鉢	底部	底：木炭痕		
112	A区BT93-94	Ⅱ層	深鉢	底部	底：樹皮痕		
113	A区北端待ちちみ	Ⅱ層	深鉢	底部	底：樹皮痕		
114	A区BT91		深鉢	底部	底：-		
115	A区北端道路南	Ⅱ層	深鉢	底部	底：-		
116	A区BT95		小形深鉢	体一底部	体：LR(横→斜)		
117	A区BT91-92沢橋	Ⅱ層	小形深鉢	底部	底：-		
118	D2区東側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁一体部：体：LR(縦)	早期末葉	地蔵内蔵
119	B2区東側	Ⅱ層	深鉢	底部	底：灰・炭・LR	早期末葉	焼土付着
120	B区平田路西側	Ⅱ層	深鉢	底部	底：-	前期前葉	焼土付着
121	B区平田路東側	Ⅱ層	深鉢	底部	底：-	前期前葉	焼土付着
122	B区	Ⅱ層	深鉢	底部	底：-	前期前葉	焼土付着
123	B2区中央	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦)→細い隆帯(横・縦)	中期前葉	
124	B区山崎東側	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦)→波線(横・縦)	中期前葉	
125	B区山崎西側	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦)→波線(横・縦)	中期前葉	
126	B区風洞木	Ⅱ層	深鉢	底部	体：LR(縦)→平行波線(横)	中期前葉	
127	B2区西側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：波線/口縁：無文	中期中葉	
128	B2区東側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	波状口縁/口縁：波線部に波線(横巻文)	中期中葉	
129	B区山崎西側	Ⅱ層	深鉢	底部	体：波線区画内LR(縦)	中期中葉	
130	B区山崎東側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：平行波線・LR(縦)	中期中葉	
131	B区山崎東側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：割糸	中期中葉	
132	B2区西側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	波状口縁/口縁：波線部に細い隆帯(横巻文)/口縁：無文/体：LR(縦)	中期中葉	
133	B区山崎西側	Ⅱ層	深鉢	底部	体：波線区画内LR(横・縦)	中期中葉	
134	B区山崎東側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：割糸/口縁：隆帯区画内LR(縦)	中期中葉	
135	B2区西側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：太い割糸/口縁：LR(縦)	中期中葉	
136	B区山崎西側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：隆帯(横)	中期後葉	
137	B区山崎西側	Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁：隆帯(横)	中期後葉	

第3表 縄文土器観察表③

No.	出土地点	器位	器種	残存部位	支種・特徴	時期	備考
138	B2区東側	土層	深鉢	底部	体：沈澱(クラク状)	後期前葉	
139	B区平畑南側	土層	深鉢	底部	体：LR(横)→沈澱(風状、円形)→磨面	後期前葉	
140	B2区中央	土層	深鉢	底部	体：沈澱(風状、粘厚)	後期前葉	
141	B2区東側	土層	深鉢	底部	体：紅(横)、沈澱(横・風状)、粘厚	後期前葉	外周スス付着
142	B2区東側	土層	深鉢	底部	体：沈澱(横)、粘厚	後期前葉	編織石
143	B2区東側	土層	深鉢	底部	体：LR(横)、沈澱(風状)、粘厚	後期前葉	内周スス付着
144	B2区東側	土層	深鉢	口縁部	口縁：縄文(厚体不明)、沈澱(横・粘厚)、磨面	後期前葉	
145	B2区東側	土層	深鉢	底部	体：LR(縦→斜)	後期前葉	
146	B区平畑西側	土層	鉢	口縁→底部	口縁：粘厚、突起(割)隆起(丁字状)、突起(体)LR(横)→沈澱(風状、粘厚)	晩期中葉	
147	B区平畑東側	土層	鉢	口縁→底部	口縁：粘厚(粘厚)	晩期中葉	内周スス付着
148	B区黒岡水	埋土	浅鉢	口縁部	口縁：沈澱、突起(口縁)LR(横)→沈澱、磨面(磨面文)	晩期中葉	外周沈澱
149	B区	埋土	浅鉢	口縁部	口縁：沈澱、突起(口縁)LR(横)	晩期中葉	外周沈澱、スス付着
150	B区平畑東側	埋土	鉢	口縁→底部	口縁：沈澱、突起(口縁)LR(横)	晩期中葉	
151	B区黒岡水	埋土	鉢	口縁→底部	口縁：粘厚、突起(口縁)LR(横)	晩期中葉	
152	B区中央	鉢	鉢	口縁部	口縁：粘厚、沈澱(横)	晩期中葉	
153	B区中央	鉢	鉢?	底部	体：LR(横)→沈澱、磨面(磨面文)	晩期中葉	
154	B区黒岡水	埋土	台付鉢	口縁→台座	口縁：割面、突起(口縁)平行沈澱(横)→割面/粘厚LR(横→斜)	晩期中葉	B区平畑東側南側、B区黒岡水と接合
155	B区山崎西側	土層	台付鉢	内部	台：無文	晩期中葉	
156	B区山崎西側	埋土	台付鉢	体→台座	体：LR(横) / 台：無文	晩期中葉	
157	B区内畑西側	埋土	台付鉢	台座	台：無文、沈澱(横)、RL(横)	晩期中葉	
158	B区内畑西側	埋土	口縁部	口縁部	口縁：粘厚、突起(口縁)LR(横)	晩期中葉	
159	B区平畑東側	埋土	広口壺	底部	口縁：粘厚、突起(口縁)無文/体：平面状文、沈澱(横)、LR(横)	晩期中葉	158-160同一
160	B区山崎西側	埋土	鉢	底部	体：LR(横)→沈澱、磨面(磨面文)	晩期中葉	
161	B区中央	壺?	底部	口縁：沈澱(横)、無文	晩期中葉		
162	B区山崎西側	埋土	壺	口縁部	口縁：無文、突起(丁字状)、突起(横に貫通孔)	晩期中葉	
163	B区内畑西側	埋土	壺	底部	体：LR→沈澱、磨面(磨面文)	晩期中葉	
164	B区内畑西側	埋土	壺	底部	体：LR→沈澱、磨面(磨面文)	晩期中葉	内周スス付着
165	B区山崎西側	埋土	壺?	底部	体：LR→沈澱、磨面(磨面文)	晩期中葉	小孔あり
166	B区黒岡水	埋土	壺?	底部	体：沈澱、突起	晩期中葉	
167	B区山崎西側	埋土	深鉢	口縁→底部	口縁→体：LR(横)	167-168同一	
168	B区山崎東側	埋土	深鉢	口縁部	口縁：LR(横)	173-174同一	外周スス付着
169	B区山崎東側	埋土	深鉢	口縁部	口縁：LR(横)	外周スス付着	
170	B2区東側	埋土	深鉢	口縁部	口縁→体：LR(横)	170-171同一	
171	B2区東側	埋土	深鉢	口縁部	口縁→体：LR(横)	170-171同一	
172	B区平畑西側	埋土	深鉢	口縁部	口縁：LR(横)	外周スス付着	
173	B2区東側	埋土	深鉢	口縁部	口縁→体：無文	173-174同一	外周スス付着
174	B2区東側	埋土	深鉢	口縁部	口縁→体：無文	173-174同一	外周スス付着
175	B2区東側	埋土	深鉢	口縁部	口縁→体：無文	175-176同一	小孔あり、外周スス付着
176	B区内畑西側	埋土	深鉢	口縁部	口縁→体：無文	外周スス付着	
177	B区	埋土	深鉢	口縁部	口縁：形跡(正横)口縁：無文	外周スス付着	
178	B区平畑西側柱穴?	深鉢	底部	体：LR(横→斜)	外周スス付着		
179	B区平畑東側黒岡水	深鉢	底部	体：L(斜)	外周スス付着		
180	B区黒岡水	埋土	深鉢	底部	体：LR(横)	外周スス付着	
181	B区山崎東側	埋土	深鉢	底部	体：LR(斜)	外周スス付着	
182	B区黒岡水	埋土	深鉢	底部	体：RL(横)		
183	B区黒岡水	埋土	深鉢	体→底部	体：LR(縦)		
184	B区平畑東側	埋土	深鉢	体→底部	体：LR(横)		内周スス付着
185	B区山崎西側	埋土	深鉢	体→底部	体：LR(横→斜)		内周スス付着
186	B区黒岡水	埋土	深鉢	体→底部	体：LR(横)		
187	B区山崎西側	埋土	深鉢	底部	底：木炭漬		
188	B2区東側	埋土	深鉢	底部	底：木炭漬		
189	B区	埋土	深鉢	底部	底：---		
190	B2区東側	埋土	深鉢	底部	底：---		
191	B区山崎東側	埋土	深鉢	底部	底：---		
192	B区山崎西側	埋土	深鉢	底部	底：---		
193	B区内畑西側	埋土	深鉢	底部	底：---		
194	B2区中央	埋土	深鉢	底部	底：---		
195	B区山崎西側	埋土	深鉢	底部	底：---		
196	B区	埋土	深鉢	底部	底：---		
197	B区T54	埋土	深鉢	底部	底：---		
198	B区平畑東側	埋土	台付深鉢?	台座	体：LR(縦) / 台：無文		
199	C区黒木村近	埋土	深鉢	口縁→底部	口縁：底紋(4稜状) / 体：RQ(3本(横)) / 底：突起	早期前葉	小孔あり

第4表 石器観察表①

No.	種別	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	台質	産地・時代	備考
1	石鏃	SK101 南側	埋土	38.7	18.6	6.2	4.1	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	
2	南後石鏃	SK101 南側	埋土	(38.5)	21.2	6.9	4.4	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	片層加工
3	奇石	SK101	床面S1	32.1	12.1	9.1		50100アイサイト	奥羽山脈、新元代新第三紀	表に赤斑、底面に窪み?
4	奇石	SK101	炉内	(27.7)	25.4	6.3	3000	砂岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	表に赤斑
5	石鏃	SK101	炉心	(18.3)	(17.0)	7.9	2985	砂アイサイト	奥羽山脈、新元代新第三紀	一部に赤斑
6	石鏃	SK102 北側	埋土	25.9	14.5	4.1	1.1	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	表層、赤斑なし
7	細石鏃	SK106	釜土S3	12.0	8.2	3.2		5987アイサイト	奥羽山脈、新元代新第三紀	表に赤斑、凹痕、裏に凹痕
8	石鏃	SK106	埋土S1	40.5	33.0	10.2	14700	砂岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	
9	奇石	SK106	埋土S2	(27.8)	16.2	2.4	1012.4	凝灰岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	表に赤斑なし
10	石鏃	SK107 南側	埋土	(38.2)	12.0	8.1	2.7	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	
11	南後石鏃	SK107 北側	埋土	68.7	47.3	17.8	51.2	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	両面加工
12	南後石鏃	SK115 南側	埋土	85.4	36.9	17.3	37.8	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	片面加工
13	石鏃	SK122	埋土	72.4	25.0	13.9	22.2	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	片面加工
14	細石鏃	SK127	埋土	(9.4)	8.9	6.5	793.8	安山岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	表に凹痕、裏に凹痕、凹痕
15	細石鏃	SK127	埋土	10.9	8.7	4.0	694.7	凝灰岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	表、裏、裏面に凹痕
16	細石鏃	SK127	埋土	12.9	7.6	2.9	292.5	凝灰岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	表、裏に凹痕
17	細石鏃	SK128	埋土	12.4	6.5	3.3	228.4	凝灰岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	表、裏、裏面に凹痕
18	細石鏃	SK128	埋土	15.4	7.7	4.0	428.0	凝灰岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	表、裏に凹痕
19	細石鏃	SK129 西側	埋土	23.9	17.2	6.8	3083.0	凝灰岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	裏面に凹痕
20	細石鏃	SK132	埋土	13.7	6.9	3.4	311.7	砂岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	表、裏に凹痕
21	石鏃	A区北側の西側	埋土	(19.6)	13.6	4.1	0.8	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	片層加工
22	石鏃	B区ノ形西側	埋土	(28.3)	13.0	4.9	1.6	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	4号室
23	石鏃	B区ノ形東側	埋土	(28.8)	17.8	4.5	1.5	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	4号室
24	石鏃	B区中央	埋土	(14.2)	12.6	4.5	0.6	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
25	石鏃	D区中央	埋土	(22.0)	12.7	3.9	0.7	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
26	石鏃	D区東側	埋土	(21.2)	12.7	4.5	0.8	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
27	石鏃	D区北側	埋土	(20.0)	11.6	3.1	0.5	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
28	石鏃	D区東側	埋土	(21.3)	13.3	4.3	0.9	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
29	石鏃	B区東側	埋土	(23.4)	11.1	3.1	0.8	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
30	石鏃	区域外表状	埋土	(21.5)	10.9	3.7	0.7	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
31	石鏃	区域外表状	埋土	(14.1)	13.0	2.5	0.4	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
32	石鏃	A区北端西側	埋土	(19.6)	17.5	2.4	0.0	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
33	石鏃	A区北端西側	埋土	24.8	14.9	4.1	1.1	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
34	石鏃	A区BT93-94	埋土	16.5	11.0	3.5	0.5	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
35	石鏃	A区BT93-94	埋土	28.0	15.5	3.6	1.1	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
36	石鏃	A区BT93-94	埋土	26.8	20.2	3.5	1.0	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
37	石鏃	A区BT95	埋土	(23.6)	14.1	3.0	0.6	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
38	石鏃	区域外表状	埋土	29.6	16.3	4.8	1.3	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
39	石鏃	A区北端	埋土	23.8	13.8	3.7	0.9	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
40	石鏃	A区北端中央	埋土	29.2	17.8	3.9	1.4	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
41	石鏃	A区北端中央	埋土	(34.5)	17.8	4.9	2.2	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
42	石鏃	A区BT91-92西側	埋土	18.1	13.6	3.1	0.6	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
43	石鏃	A区BT91-92東側	埋土	(16.6)	12.0	3.2	0.5	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
44	石鏃	A区BT94-95	埋土	33.0	13.2	4.7	1.6	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
45	石鏃	A区BT95より西	埋土	17.6	12.0	3.6	0.6	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
46	石鏃	B区東側	埋土	(11.9)	(9.4)	3.7	0.3	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	赤斑不明
47	石鏃	A区BT91-92西側	埋土	(42.9)	(27.0)	9.9	9.5	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
48	石鏃	A区北端西側	埋土	52.7	17.9	9.9	5.7	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
49	石鏃	A区北端西側	埋土	69.8	17.9	9.7	10.0	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
50	石鏃	A区BT95より西	埋土	38.3	14.4	10.5	6.5	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
51	石鏃	B区東側	埋土	(36.6)	25.8	11.9	6.2	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
52	石鏃	B区東側	埋土	(26.2)	13.1	7.3	2.0	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
53	石鏃	A区北端西側	埋土	64.4	28.7	10.9	14.7	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
54	石鏃	A区北端西側	埋土	(58.3)	28.4	7.5	7.3	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
55	石鏃	A区北端西側	埋土	58.7	25.7	7.6	6.5	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
56	石鏃	A区中央	埋土	(28.9)	18.1	6.2	2.3	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
57	石鏃	A区東側	埋土	81.1	23.5	7.5	10.7	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
58	石鏃	A区BT90	埋土	72.0	21.2	7.5	9.0	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
59	石鏃	A区BT91-92	埋土	(32.3)	16.8	6.1	3.1	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
60	石鏃	A区BT93-94	埋土	(44.3)	12.4	5.4	4.3	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
61	石鏃	A区BT94-95	埋土	80.0	22.2	13.3	16.0	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
62	石鏃	A区北端西側	埋土	76.5	18.2	9.8	10.8	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
63	石鏃	A区BT94-95	埋土	53.8	30.5	10.5	12.1	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
64	石鏃	A区BT95より西	埋土	51.1	33.5	6.2	9.5	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
65	石鏃	A区北側の西側	埋土	52.8	26.7	7.2	8.3	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
66	石鏃	B区山前西側	埋土	(102.6)	21.8	12.1	17.0	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
67	石鏃	区域外表状	埋土	60.1	26.1	7.5	10.3	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
68	石鏃	A区北端中央	埋土	39.3	(39.4)	6.6	6.0	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
69	石鏃	A区北端西側	埋土	37.8	56.8	8.4	11.6	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
70	石鏃	区域外表状	埋土	47.1	49.4	12.4	16.3	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
71	石鏃	B区東側	埋土	53.0	90.6	13.1	36.1	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
72	石鏃	B区東側	埋土	42.3	36.9	8.1	10.2	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
73	石鏃	区域外T57	埋土	50.5	(73.5)	14.0	26.0	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
74	石鏃	区域外表状	埋土	43.7	58.1	9.7	14.7	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
75	石鏃	A区北端	埋土	31.2	75.4	11.2	19.5	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑
76	石鏃	A区BT93-94	埋土	72.0	33.2	12.1	13.6	頁岩	奥羽山脈、新元代新第三紀	有赤斑

第4表 石器觀察表②

No	種別	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	産地・時代	備考
77	石匙	B区斜面内側	II層	927	36.3	11.3	241	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
78	石匙	B2区東側	II層	287	60.1	9.2	15.2	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	研製
79	石匙	A区北側	II層	62.3	24.3	14.9	33.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
80	石匙	A区北側	II層	68.1	39.5	15.4	29.5	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
81	石匙	A区北側	II層	64.2	49.3	16.3	36.9	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
82	石匙	A区北側沢内	II層	96.5	49.6	17.0	66.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
83	石匙	A区北側沢内	II層	82.2	67.7	17.6	48.4	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
84	石匙	A区北側沢内	II層	65.8	37.3	17.9	40.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
85	石匙	A区北側	II層	69.9	35.7	14.1	23.4	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
86	石匙	A区北側	II層	72.1	32.2	16.1	35.3	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
87	石匙	A区北側沢内	II層	64.4	39.0	17.8	39.9	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
88	石匙	A区北側	II層	54.3	31.4	9.9	14.7	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	一部研製加工
89	石匙	A区北側	II層	69.7	43.2	15.2	41.7	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
90	石匙	A区北側	II層	59.3	31.9	14.9	25.6	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
91	石匙	A区北側	II層	92.9	41.3	18.4	53.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
92	石匙	A区北側	II層	101.3	53.7	17.9	38.9	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
93	石匙	A区北側沢内	II層	51.2	36.5	13.6	25.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
94	石匙	A区北側沢内	II層	73.5	36.1	12.8	34.2	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
95	石匙	A区北側	II層	89.8	38.8	16.1	50.5	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
96	石匙	B2区中央	II層	63.2	38.1	14.5	31.6	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
97	石匙	A区北側	II層	68.8	35.1	18.7	44.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	一部研製加工
98	削棒磨盤	A区北側	II層	57.0	37.0	10.0	17.5	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
99	削棒磨盤	A区北側	II層	49.2	18.8	7.0	6.9	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
100	削棒磨盤	A区北側	II層	59.8	31.8	10.7	11.5	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
101	削棒磨盤	A区北側	II層	46.7	34.8	14.5	18.9	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	一部研製加工
102	削棒磨盤	A区北側沢内	II層	59.4	17.7	6.0	4.0	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
103	削棒磨盤	A区北側	II層	49.2	46.1	10.2	11.4	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
104	削棒磨盤	A区北側沢内	II層	87.3	32.8	11.7	38.3	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
105	削棒磨盤	A区北側	II層	71.5	36.8	18.4	40.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
106	削棒磨盤	A区北側	II層	75.3	28.7	10.7	19.0	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
107	削棒磨盤	A区北側	II層	57.3	32.2	12.0	19.6	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	一部研製加工
108	削棒磨盤	A区北側沢内	II層	47.2	22.2	11.6	14.9	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	一部研製加工
109	削棒磨盤	A区北側	II層	52.0	35.4	13.8	22.4	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
110	削棒磨盤	A区北側	II層	196.7	26.4	25.2	38.9	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	一部研製加工
111	削棒磨盤	A区北側	II層	56.6	32.4	13.9	22.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
112	削棒磨盤	A区北側	II層	50.0	29.4	10.9	19.4	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
113	削棒磨盤	B区山麓南側	II層	114.9	31.7	13.7	45.9	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
114	削棒磨盤	B区山麓南側	II層	61.0	29.5	8.4	8.9	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	一部研製加工
115	削棒磨盤	B区山麓東側	II層	64.4	39.3	12.6	22.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
116	削棒磨盤	B2区中央	II層	86.7	41.1	13.9	32.0	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	一部研製加工
117	削棒磨盤	B2区東側	II層	74.7	32.9	11.4	20.2	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
118	削棒磨盤	B2区東側	II層	53.3	73.7	13.9	43.0	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
119	削棒磨盤	区域外T14	IV層上面	67.3	41.1	11.8	24.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
120	削棒磨盤	区域外T53	IV層上面	51.0	32.1	7.6	11.9	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
121	削棒磨盤	区域外表層		61.6	27.8	9.6	15.7	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
122	削棒磨盤	区域外表層		64.2	22.4	14.5	21.5	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
123	削棒磨盤	区域外表層		38.4	41.4	13.8	27.5	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
124	片石	A区北側沢内	II層	49.1	60.3	7.9	7.6	赤色頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	片面加工
125	片石	A区北側沢内	II層	61.0	52.9	60.8	112.1	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	表、裏面直線状磨痕、右端磨石
126	打撃石	A区北側	II層	78.2	122.3	40.1	324.7	砂岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	
127	敲磨磨盤	B2区西側	II層	68.8	5.9	4.6	330.8	アイト	奥羽山脈、新生代新第三紀	
128	敲磨磨盤	B2区西側	II層	19.5	6.9	5.2	573.4	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	表、裏面直線状磨痕、右端磨石
129	敲磨磨盤	B2区東側	II層	18.9	6.8	3.2	369.5	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	表、裏面直線状磨痕、右端磨石

V 総 括

平成22年度の調査は、遺跡の南西側範囲を調査した。

縄文時代と推定される遺構は、竪穴住居跡1棟(A区: S I 101)、土器埋設遺構1基(B区: S F 101)、土坑26基(A区: S K 101~111・114・115、B区 S K 116~118・122・126・127・128A・128B・130・132・134・135・138)、である。時期不明の遺構は、土坑8基(A区: S K 112・113、B区: S K 121・125・131・133・136・137)、柱穴22基(A区: P 101~122)、焼土3基(C区 S N 101・102、B区: S N 104)である。

遺物は、縄文土器が早期中葉から晩期中葉まで、各時期のものが少量ずつ出土している。石器は、石鏃、尖頭器、石鏃、石匙、石筥、削搔器類、異形石器、打製石斧、敲磨器類、石皿・台石などのほか、製品以外の剥片石器や石核などが出土している。

時期毎にもう少し詳しく述べていく。

縄文早期の遺構は確認されなかった。遺構外出土の土器は、貝殻腹線圧痕を有するもの、表裏条痕文を有するもの、縄文のみのものなどがあり、中葉～末葉と考えられる。

縄文前期は、A区の S K 103土坑で前期前葉とみられる土器が出土している。遺構外では散発的に出土しており、胎土に繊維を含む前期前葉のものを主体とする。

縄文中期は、中期後葉の複式炉を持つ竪穴住居跡1棟(A区の S I 101)が確認された。遺構外では、A・B区で前葉・中葉・後葉の土器が少量ずつ出土している。

縄文後期は、後期前葉の土坑3基(A区の S K 101・102・108)が確認された。この3基はA区南東側にまとまっており、S K 101・102は形状と規模から貯蔵穴と推定され、S K 108は埋土中から礫が大量に出土しており、墓塚と推定される。同じA区の S K 106・107・111・114は、時期を特定できる出土土器がないものの S K 108と同様に礫が出土しており、墓塚の可能性がある。遺構外出土土器は、A区のものでは後期前葉で、B区では、北東部B 2区で後期後葉のものが出土している。

縄文晩期は、晩期中葉の土坑2基(B区の S K 128A・132)が確認された。S K 128Aは礫が大量に出土しており、墓塚と推定される。S K 132は、形状と規模は S K 128Aに近いが、礫は出土していない。同じB区の S K 125・126は、時期を特定できる出土土器がないものの S K 128Aと同様に礫が出土しており、墓塚の可能性がある。B区では遺構外でも晩期中葉の土器が出土しているが、A区では遺構内外とも晩期の土器は出土していない。

これまでの調査を鑑みると、縄文早期は平成21年度までの調査でも遺構外で中葉以降の土器が出土しているが、この時期の遺構と特定できるものは確認されていない。前期は、土坑1基のみである。前期後葉頃とみられる土器はこれまでのところ出土しておらず、本遺跡における空白期と言えるのかもしれない。

確認された遺構の大半は縄文中期後葉～後期中葉に属し、中でも中期末葉～後期初葉と考えられるものが多いようである。竪穴住居跡は、今回の調査ではA区の1棟(中期後葉)のみであったが、20年度Ⅲ区(A区のすぐ北側)でこれとほぼ同時期とみられる竪穴住居跡1棟が確認されている。また、20年度Ⅰ区(A区より200m程北側の小寒沢南岸)では、中期後葉～後期中葉の竪穴住居跡5棟が確認されており、この中には外周に礫を配した特殊なものがある。土坑は、墓塚や貯蔵穴と考えられるものが複数確認されている。なお、遺跡南西端のⅣ区では、やや古い中期中葉の竪穴住居跡3棟が確認されており、18年度調査の遺跡北東側調査区では、やや新しい後期後葉の墓塚1基が確認されている。

縄文晩期は、20年度調査で晩期末葉の土器がごく僅かに出土したのみであったが、今回の調査のB

区では晩期中葉とみられる墓塚が確認され、遺構外でも土器がある程度出土している。

なお、平成18～21年度の調査では、後期旧石器時代の石器、縄文時代草創期の石器、弥生時代後期の土器、古代の上器、中世の炉跡・焼土遺構と土器、近世以降の掘立柱建物跡・炭窯なども確認されているが、平成22年度の調査ではこれらの時代に属する遺構・遺物は確認できなかった。

今回の調査により、若柳林道より西側の範囲は一通りすべて調査を終了したことになる。これまでの調査で、竪穴住居跡の多くが林道付近(前川に近い調査区の東側)で確認されており、林道より東側の範囲にも竪穴住居跡が存在し遺跡の主体部となる可能性も十分に考えられる。この範囲についてはまだ本格的な調査が行われていない。第Ⅱ章で触れた昭和時代の調査はこの東側範囲の一部で行われたとみられるが、詳細な調査地点は未確認である。今回の調査時には樹木が鬱蒼と生い茂った状況で詳しい様子は確認できなかったが、地形的には林道西側と同様の平坦地が前川付近までもう少し続いているようである。本遺跡の全容解明はこの林道東側の調査成果に大きく左右されると考えられる。今後の調査に期待したい。

引用・参考文献

胆沢町史刊行会 1981 『胆沢町史Ⅰ 原始古代編』

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

- 1997 『下原前Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第252集
- 1998 『下原前Ⅳ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第269集
- 1999 『原前Ⅱ遺跡A地区発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第288集
- 1999 『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成10年度)』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第311集
- 2000 『原前Ⅱ遺跡B地区発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第343集
- 2010 『平成21年度発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第571集
- 2011 『大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第576集

写 真 图 版



遺跡全景（南西から）



調査区全景（南東から）



A区全景（南西から）



B・C区全景（北東から）



除雪作業
(北東から)



調査区東側試掘状況
(北東から)



調査区東側試掘状況
(北東から)

写真図版3 試掘・遺構検出状況①



調査区東側試掘状況
(南西から)



調査区東側遺構検出状況
(南西から)



調査区西端試掘状況
(南西から)

写真図版4 試掘・遺構検出状況②

A区全景
(南東から)



A区東側全景
(北東から)



A区遺構検出作業
(北東から)





A区北側全景
(北西から)



A区柱穴群1
(北西から)



A区柱穴群2
(北西から)



B区全景
(南西から)



B区全景
(北から)



B区北側全景
(南西から)



B区東側全景
(北から)



B区遺構検出作業
(南西から)



C区全景
(南西から)



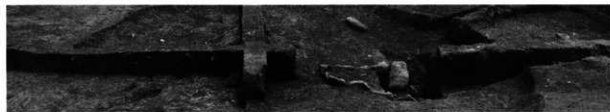
SI101 完掘 (南から)



SI101 複式炉完掘 (南から)



SI101 調査風景



SI101 断面 (西から)



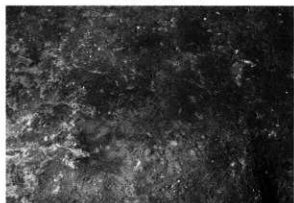
SI101 断面 (南から)



SF101 検出 (南東から)



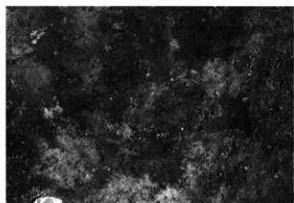
SF101 断面 (南東から)



SN101 検出 (南から)



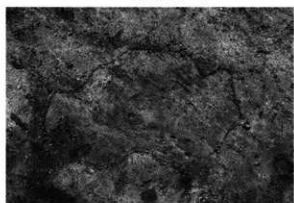
SN101 断面 (南から)



SN102 検出 (南西から)



SN102 断面 (南西から)



SN104 検出 (北から)



SN104 断面 (南から)



SK101 完掘 (南から)



SK101 断面 (南から)



SK101 土器出土状況 (南から)



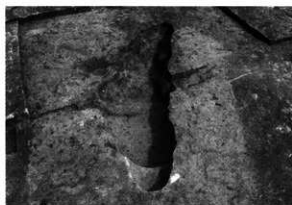
SK101 土器出土状況 (南から)



SK102 完掘 (南東から)



SK102 断面 (南東から)



SK103 完掘 (北西から)



SK103 断面 (北西から)



SK104 完掘 (南西から)



SK104 断面 (南西から)



SK105 完掘 (南から)



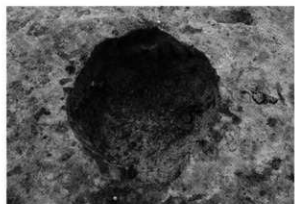
SK105 断面 (南から)



SK106 完掘 (南から)



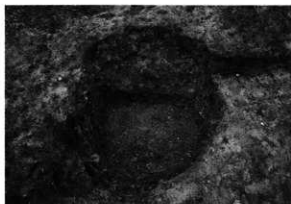
SK106 断面 (南から)



SK107 完掘 (南西から)



SK107 断面 (南東から)



SK108 完掘 (北西から)



SK108 断面 (北西から)



SK109 完掘 (南から)



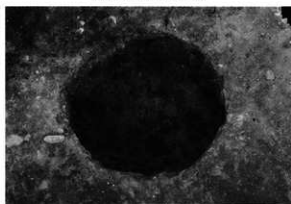
SK109 断面 (西から)



SK110 完掘 (西から)



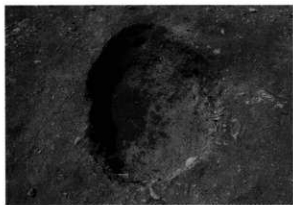
SK110 断面 (西から)



SK111 完掘 (西から)



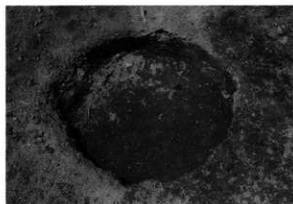
SK111 断面 (西から)



SK112 完掘 (北から)



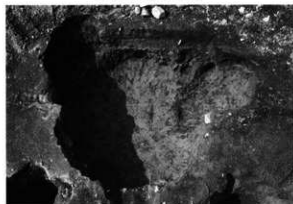
SK112 断面 (北から)



SK113 完掘 (東から)



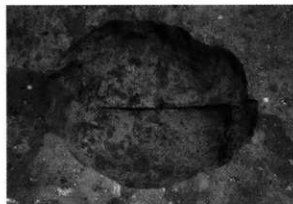
B 区検出作業 (北西から)



SK114 完掘 (南から)



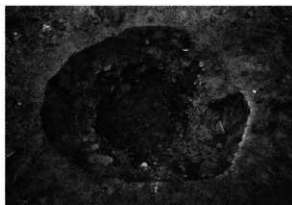
SK114 断面 (南から)



SK115 完掘 (西から)



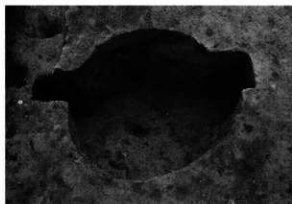
SK115 断面 (西から)



SK116 完掘 (東から)



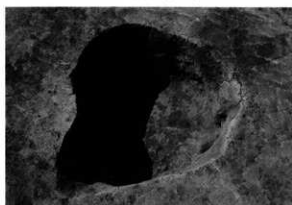
SK116 断面 (東から)



SK117 完掘 (東から)



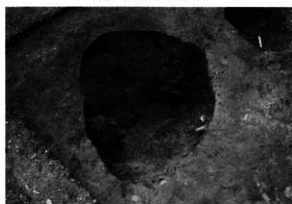
SK117 断面 (南西から)



SK118 完掘 (南から)



SK118 断面 (南東から)



SK121 完掘 (北東から)



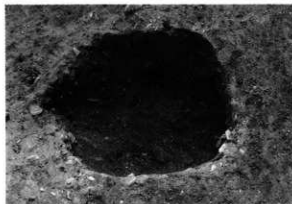
SK121 断面 (北東から)



SK122 完掘 (北東から)



SK122 断面 (北東から)



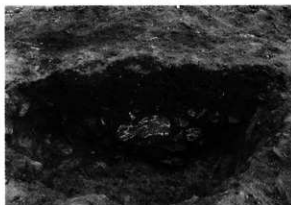
SK125 完掘 (北東から)



SK125 断面 (北東から)



SK126 完掘 (南東から)



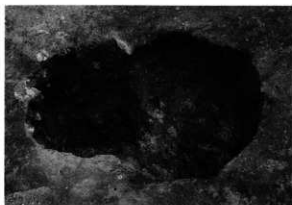
SK126 断面 (北西から)



SK127 完掘 (南から)



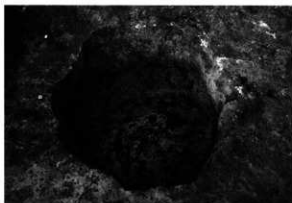
SK127 断面 (北から)



SK128 完掘 (北西から)



SK128 断面 (北東から)



SK130 完掘 (北東から)



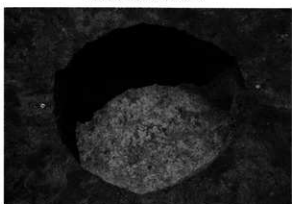
SK130 断面 (南西から)



SK131 完掘 (南西から)



SK131 断面 (南西から)



SK132 完掘 (南西から)



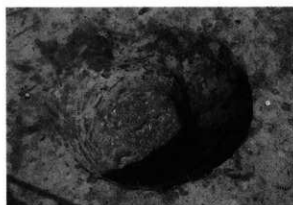
SK132 断面 (南西から)



SK133 完掘 (南東から)



SK133 断面 (南東から)



SK134 完掘 (南西から)



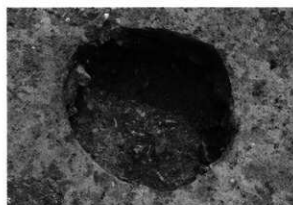
SK134 断面 (南西から)



SK135 完掘 (南西から)



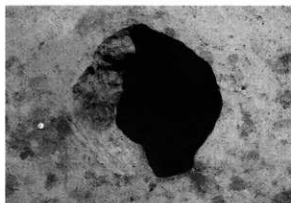
SK135 断面 (南西から)



SK136 完掘 (北から)



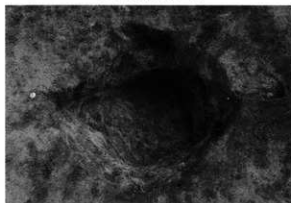
SK136 断面 (南西から)



SK137 完掘 (北から)



SK137 断面 (南から)



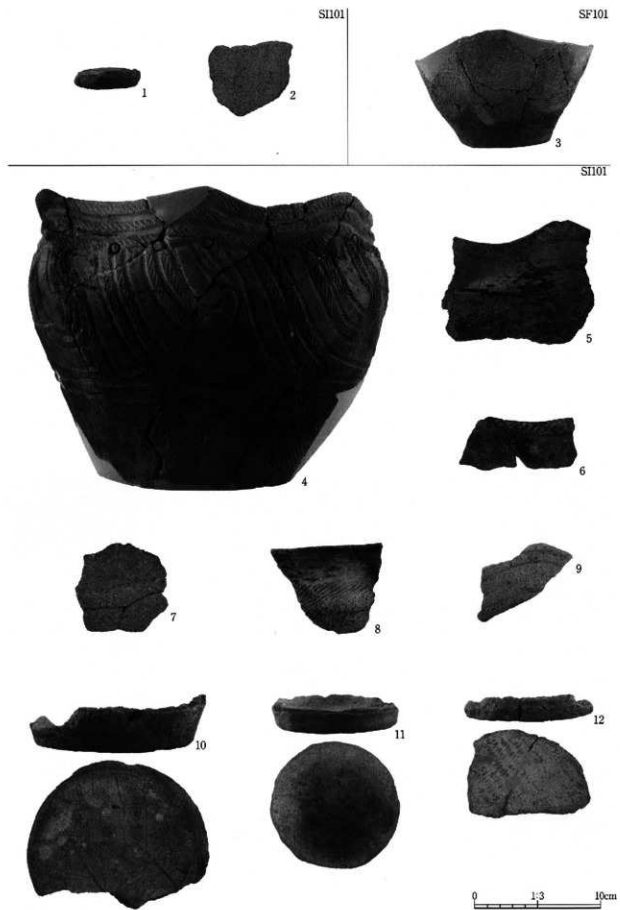
SK138 完掘 (北から)



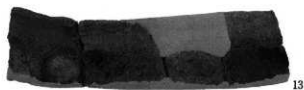
SK138 断面 (南から)



調査スタッフ集合写真



写真図版20 縄文土器①



13

SK102



15



16



14



SK103



17

SK107



19



SK108



21

SK110



22

SK104



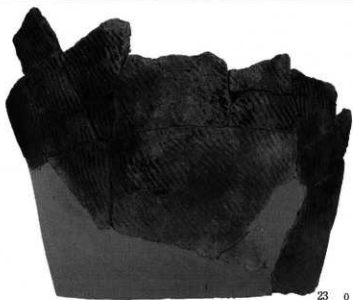
18



20



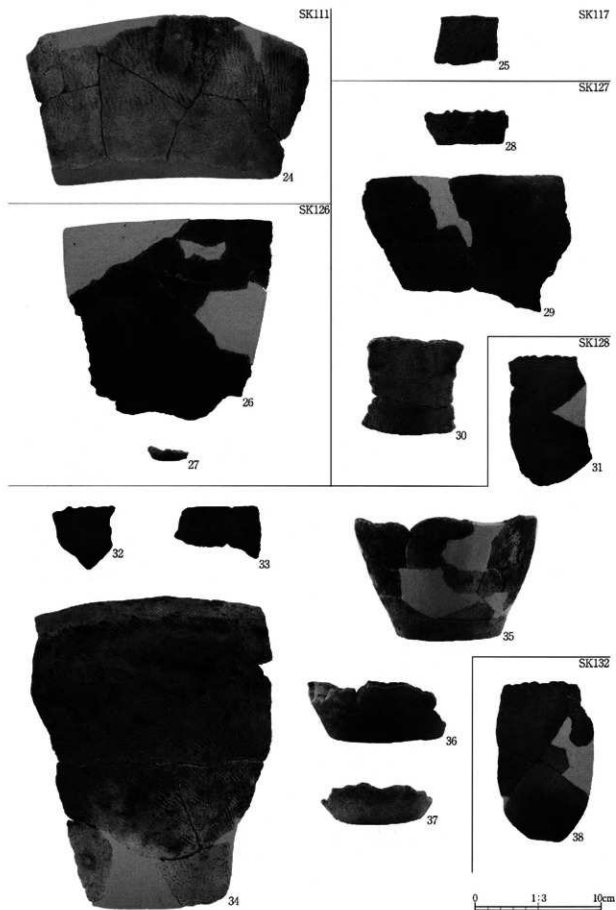
SK111



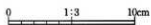
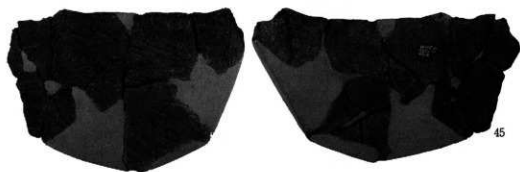
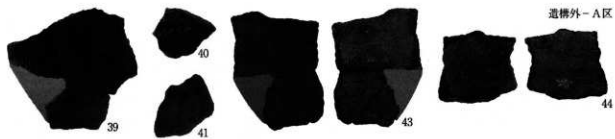
23

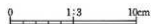
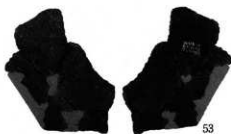
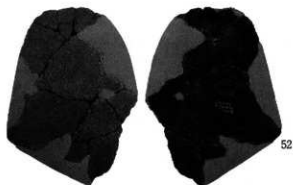
0 1:3 10cm

写真図版21 縄文土器②

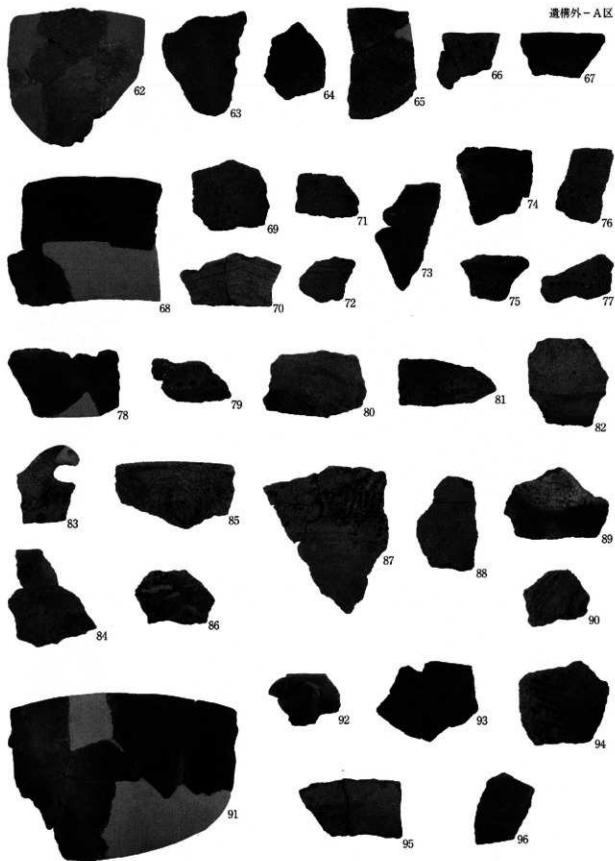


写真図版22 縄文土器③

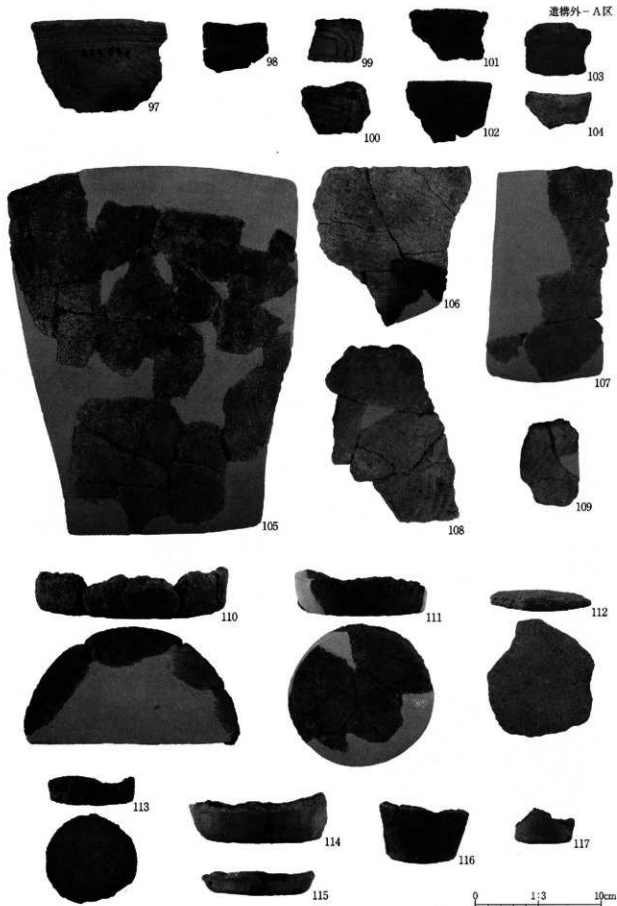




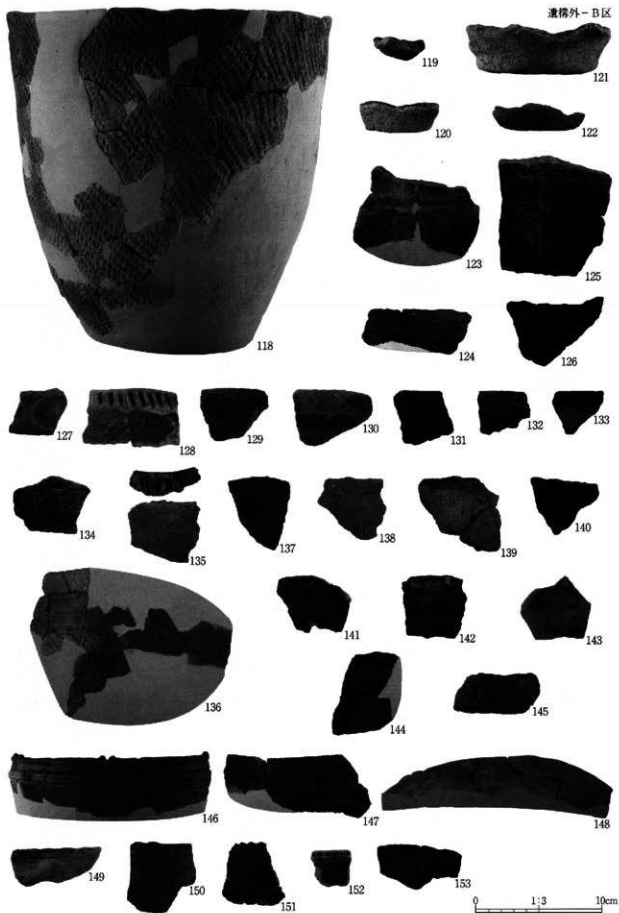
写真図版24 縄文土器⑤



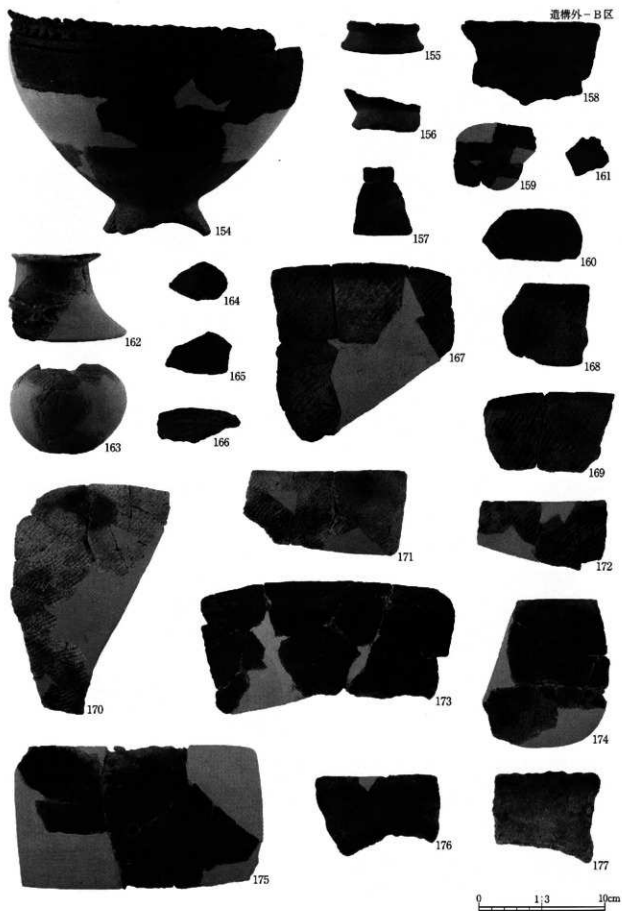
写真図版25 縄文土器⑥



写真図版26 縄文土器⑦

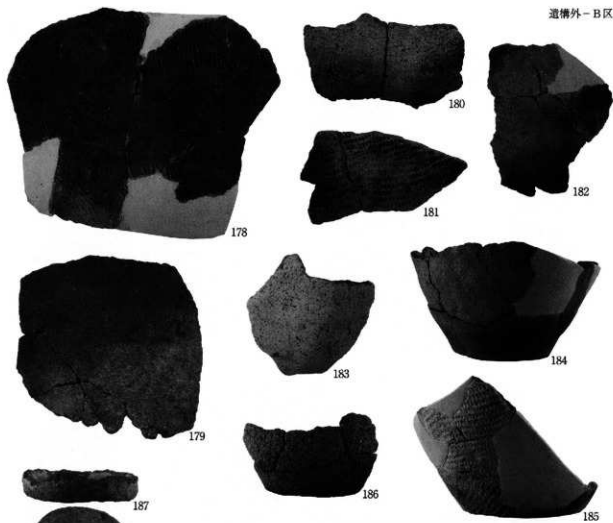


写真図版27 縄文土器⑧

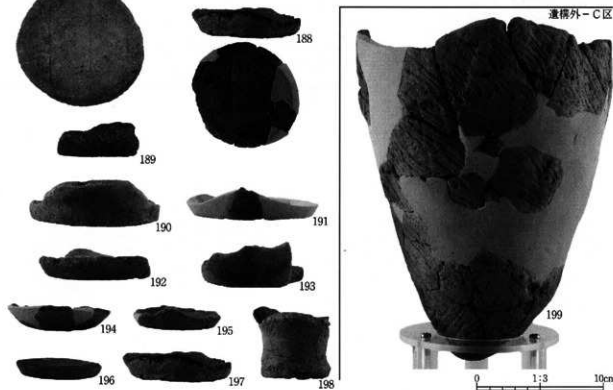


写真図版28 縄文土器⑨

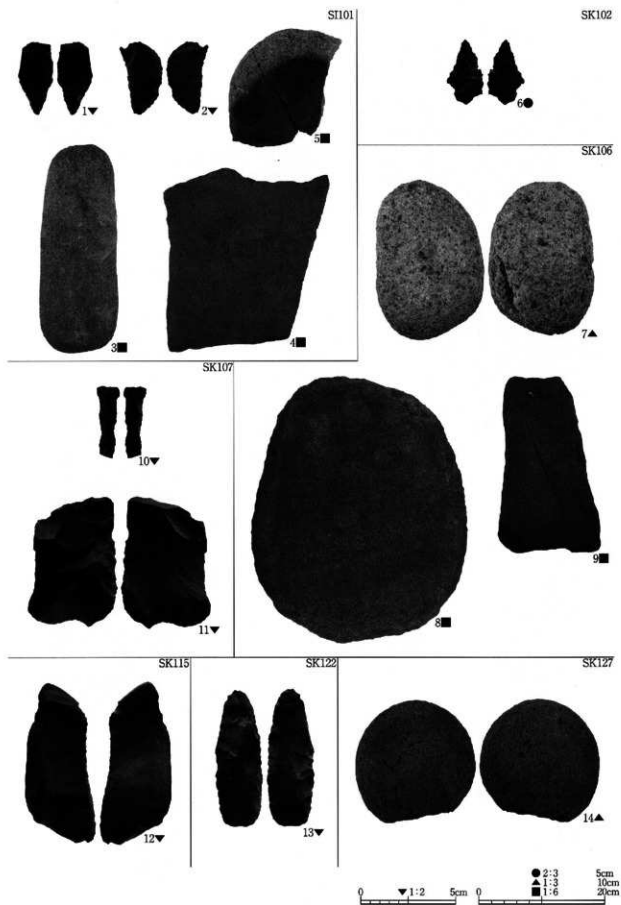
遺構外-B区



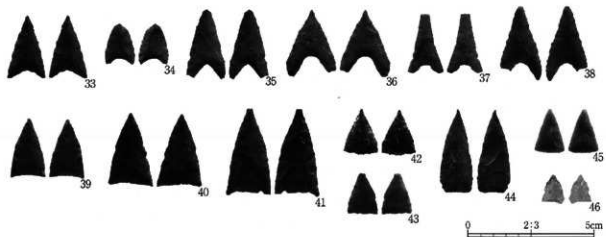
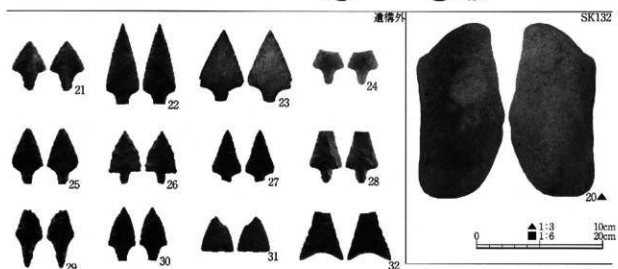
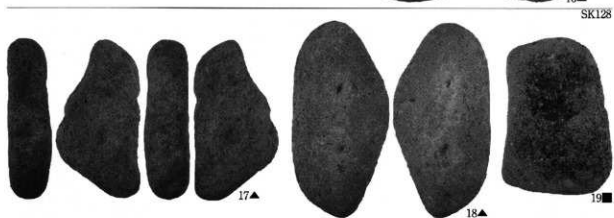
遺構外-C区



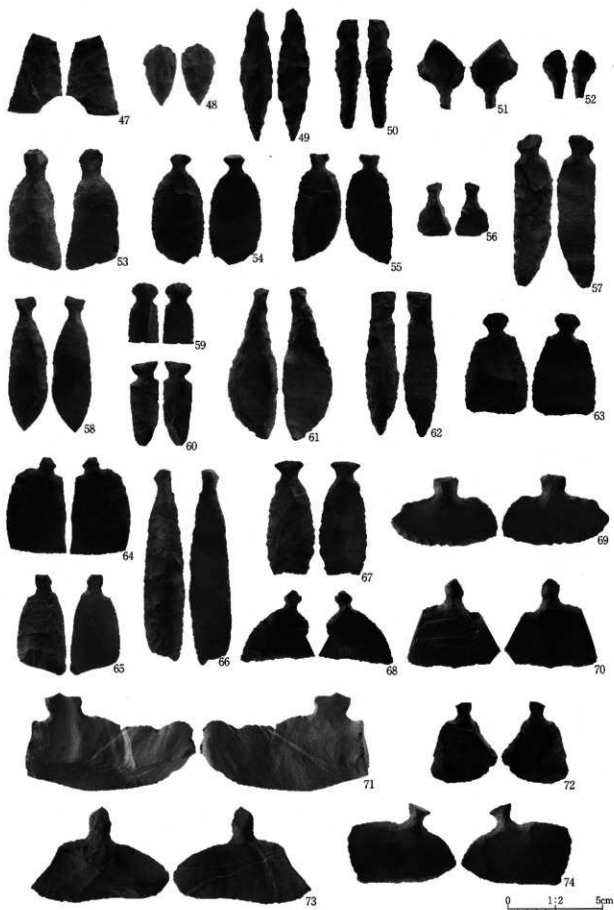
写真図版29 縄文土器⑩



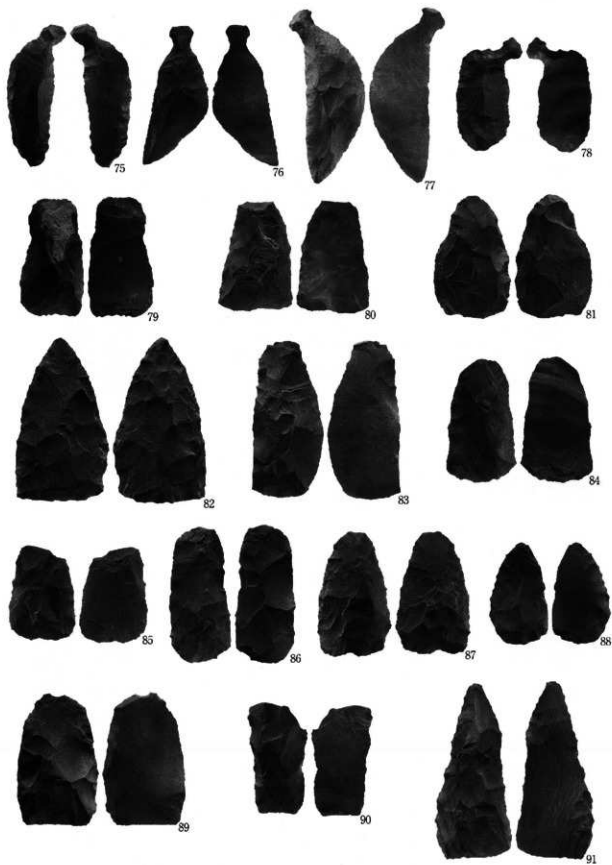
写真図版30 石器①



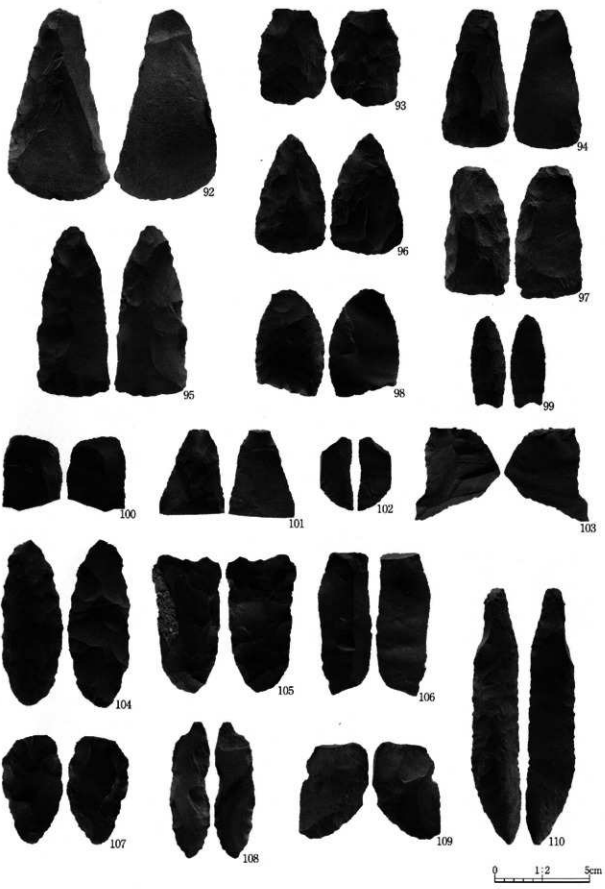
写真図版31 石器②



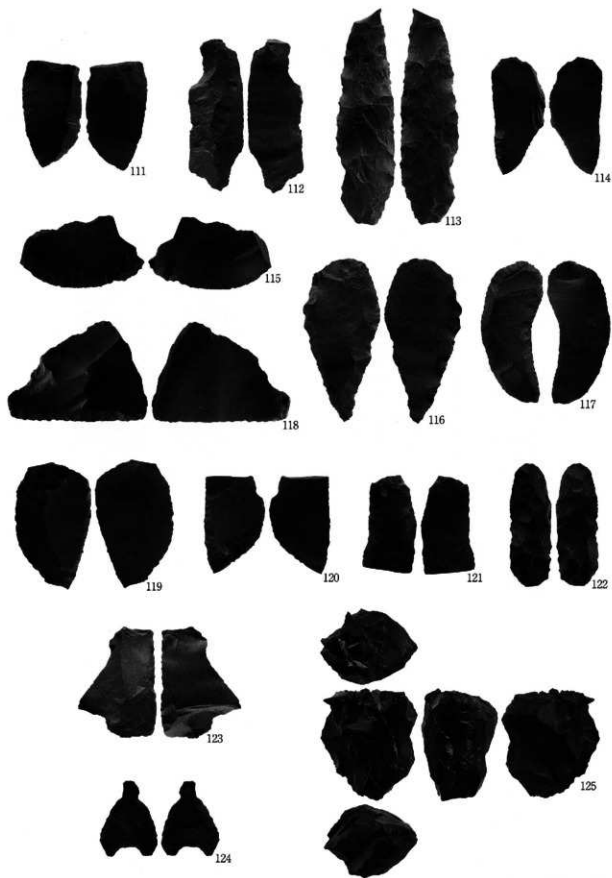
写真図版32 石器③

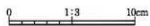
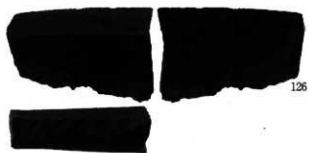


写真图版33 石器④



写真図版34 石器⑤





報告書抄録

ふりがな	おおだいらの2いせきはつちょうさほうこくしょ							
書名	大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	胆沢ダム建設事業（大平野地区）関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第593集							
編著者名	川又 晋・小林弘卓							
編集機関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地 TEL (019)638-9001							
発行年月日	2012年3月14日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大平野Ⅱ遺跡	岩手県奥州市胆沢区 若鷲字大平野 1-1 ほか	03215	NE30-2300	39度 05分 34秒	140度 52分 05秒	2010.04.12 ～ 2010.09.30	7,300㎡	胆沢ダム建設事業（大平野地区）に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大平野Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代 時期不明	堅穴住居跡 土坑 (時期不明含む) 土器埋設遺構	1棟 34基 1基	縄文土器 石器	5箱 129点		
			焼土遺構 柱穴	3基 22個	石鏡 尖頭器 石匙 石匙 石籠 削接器類 石核 異形石器 石斧 敲磨器類 石皿 白石	27点 1点 7点 26点 20点 29点 1点 1点 1点 10点 3点 3点		
要約	<p>大平野Ⅱ遺跡は、奥州市胆沢総合支所の西約18km、石函ダムの南西約4kmに位置する。今回の調査は第5次調査に相当し、遺跡範囲の南西側部分を調査した。</p> <p>遺構は、縄文時代中期後葉の堅穴住居跡1棟を始めとして、土器埋設遺構、焼土遺構、土坑、柱穴などが確認された。</p> <p>遺物は、縄文土器（早期～晩期）と石器が出土している。</p>							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第593集

大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業(大平野地区)関連遺跡発掘調査

印刷 平成24年3月9日
発行 平成24年3月14日

- 編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019)638-9001
- 発行 国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所
〒023-0403 岩手県奥州市胆沢区若柳字下松原77
電話 (0197)46-4711
- (公財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019)654-2235
- 印刷 鈴木印刷株式会社
〒023-1101 岩手県奥州市江刺区岩谷堂字松長根15-5
電話 (0197)35-4515

